

2 広報・広聴

問 14 広報活動の周知度

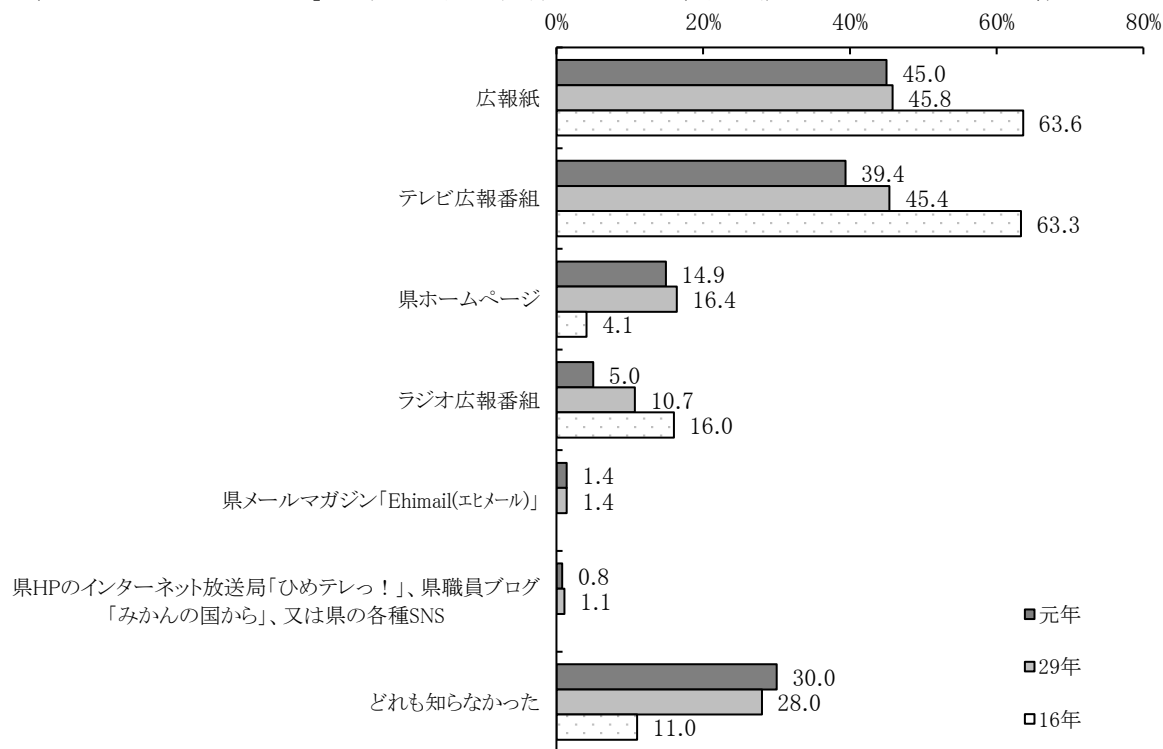
県では、次のような広報を行っていますが、あなたが知っているものをいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 テレビ広報番組		
①特命副知事みきゃん大作戦 (南海放送)		39.4
②特別番組「SHERRY'S えひめ eye 愛」 (南海放送)		
えひめ探検隊 コミーとコミンズ」 (南海放送)		
2 広報紙「愛顔のえひめ」 (新聞折り込みによる広報紙)		45.0
3 ラジオ広報番組		
①FMみきゃんラジオ (FM愛媛)		5.0
②週刊みきゃんラジオ (南海放送ラジオ)		
4 県メールマガジン「Ehimail(エヒメール)」		1.4
5 県ホームページ		14.9
6 県ホームページのインターネット放送局「ひめテレっ!」、 県職員ブログ「みかんの国から」、又は県の各種 SNS (Facebook、Twitter、Instagram)		0.8
7 どれも知らなかった		30.0

県が行っている広報活動のうち、知っているものを聞いたところ、「広報紙」(45.0%)、「テレビ広報番組」(39.4%)と答えた人の割合が特に多く、以下「県ホームページ」(14.9%)、「ラジオ広報番組」(5.0%)、「県メールマガジン「Ehimail」」(1.4%)、「県ホームページのインターネット放送局「ひめテレっ!」、県職員ブログ「みかんの国から」、又は県の各種 SNS (Facebook、Twitter、Instagram)」(0.8%)の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「広報紙」と答えた人の割合が0.8ポイント、「テレビ広報番組」は6.0ポイント、「県ホームページ」は、1.5ポイント減少している。

なお、「どれも知らなかった」と答えた人の割合が30.0%と、前回調査より2.0ポイント増加している。



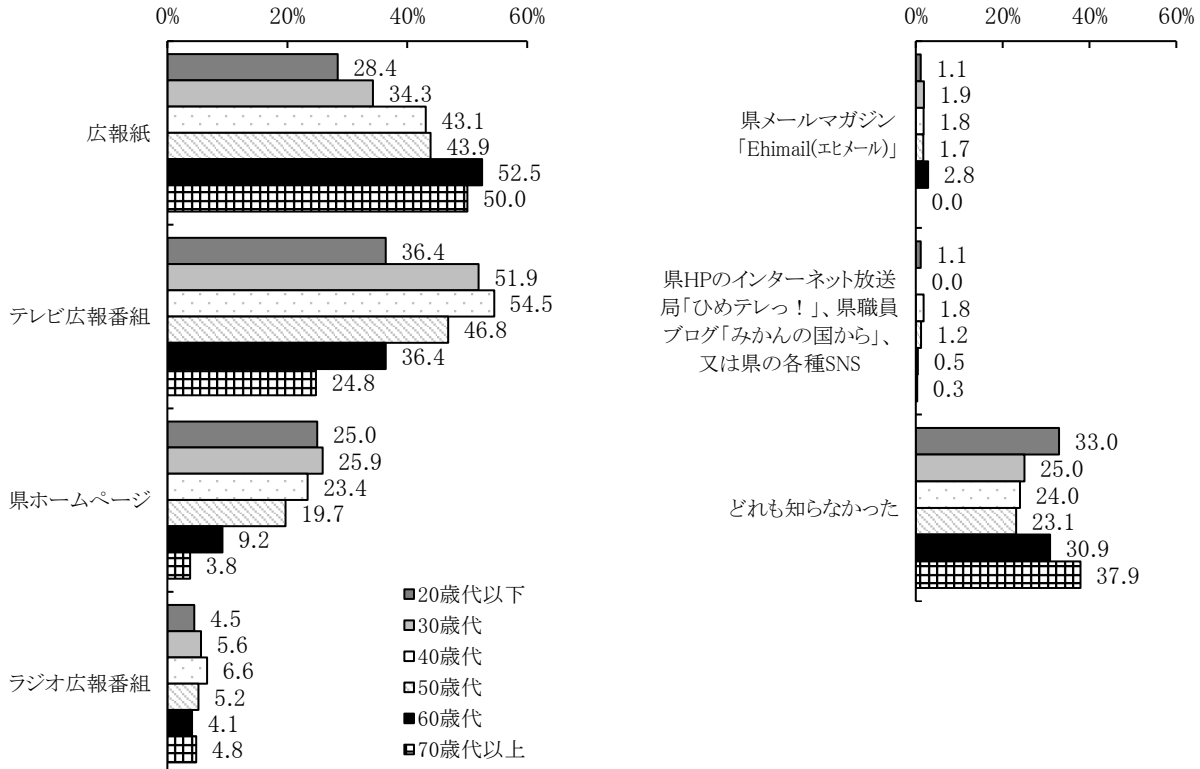
(注) 平成 29 年度調査は、県 HP のインターネット放送局「ひめテレっ!」、県職員ブログ「みかんの国から」のみ。

【年齢別】

年齢別にみると、60歳代以上では「広報紙」と答えた人の割合が最も多く、50歳代以下では、「テレビ広報番組」が最も多くなっている。

また、「どれも知らなかった」と答えた人の割合は、30歳代で前回調査と比較して9.5ポイント減少し、60歳代で7.6ポイント増加している。

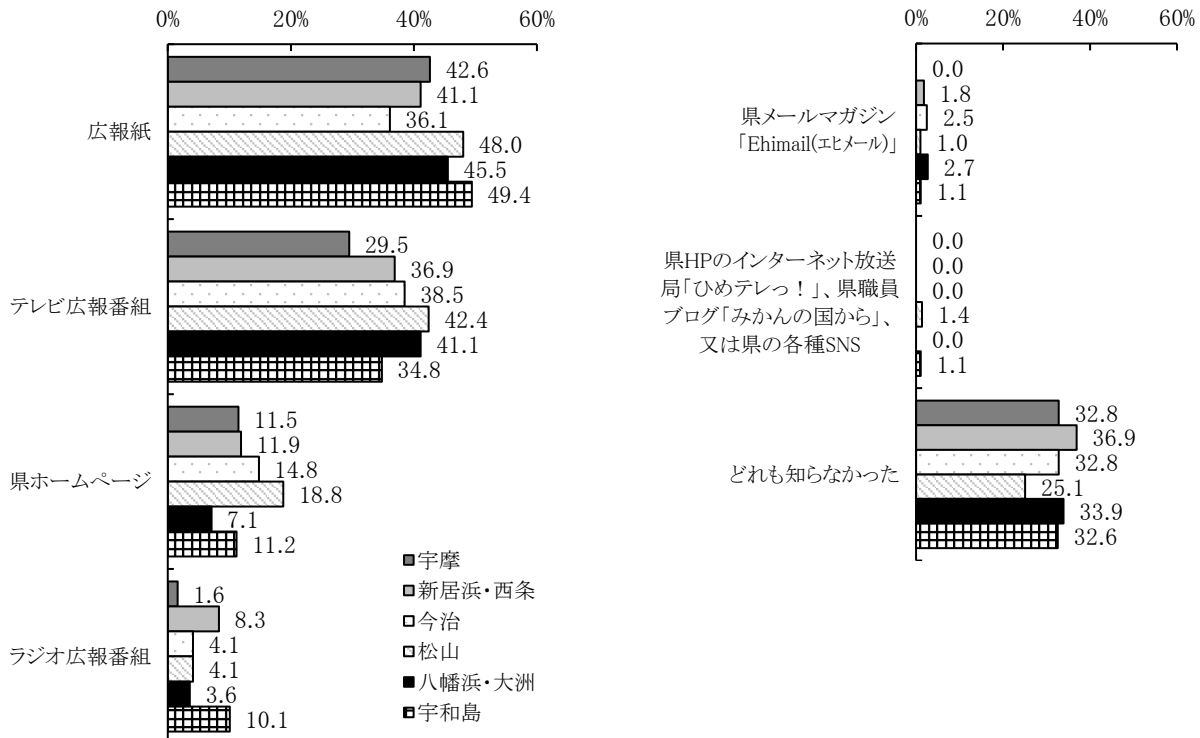
この他、「広報紙」と答えた人の割合は、30歳代以下で他の年齢層と比較して特に少なく、「県ホームページ」は、60歳代以上で特に少なくなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、今治圏域を除く全ての圏域で、「広報紙」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域では、「テレビ広報番組」が最も多くなっている。

また、「どれも知らなかった」と答えた人の割合は、宇和島圏域で前回調査より10.3ポイント、八幡浜・大洲圏域で8.3ポイント増加している。



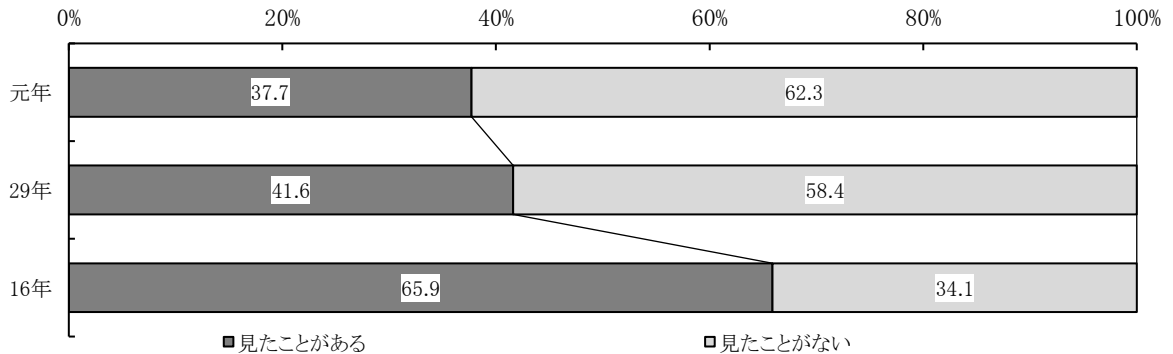
問 15 テレビ広報番組の視聴経験

県のテレビ広報番組（①特命副知事みきゃん大作戦（南海放送 日曜 20：54～21：00）、再放送（南海放送 日曜 12：50～12：55）、②特別番組「SHERRY'S えひめ eye 愛」、「えひめ探検隊 コミーとコミンズ」（南海放送 毎月最終水曜日 20：54～21：00）をご覧になったことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	①又は②を見たことがある	37.7
2	①も②も見なかった	62.3
↓		
《テレビ広報番組を見ての感想》		(回答者=400人)
		(単数回答)
		(%)
1	番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった	27.8
2	番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった	48.0
3	番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい	10.3
4	番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい	7.8
5	その他	6.3
↓		
《「見たことがない」理由》		(回答者=655人)
		(単数回答)
		(%)
1	放送されていることを知らなかった	67.2
2	仕事の都合などで、現在の放送時間では見るができない	13.3
3	広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない	8.5
4	その他	11.0

県のテレビ広報番組を見たことがあるかを聞いたところ、「見たことがない」と答えた人の割合が62.3%で、「見たことがある」(37.7%)を24.6ポイント上回っている。

また、前回調査と比較すると、「見たことがない」と答えた人の割合が、3.9ポイント増加している。



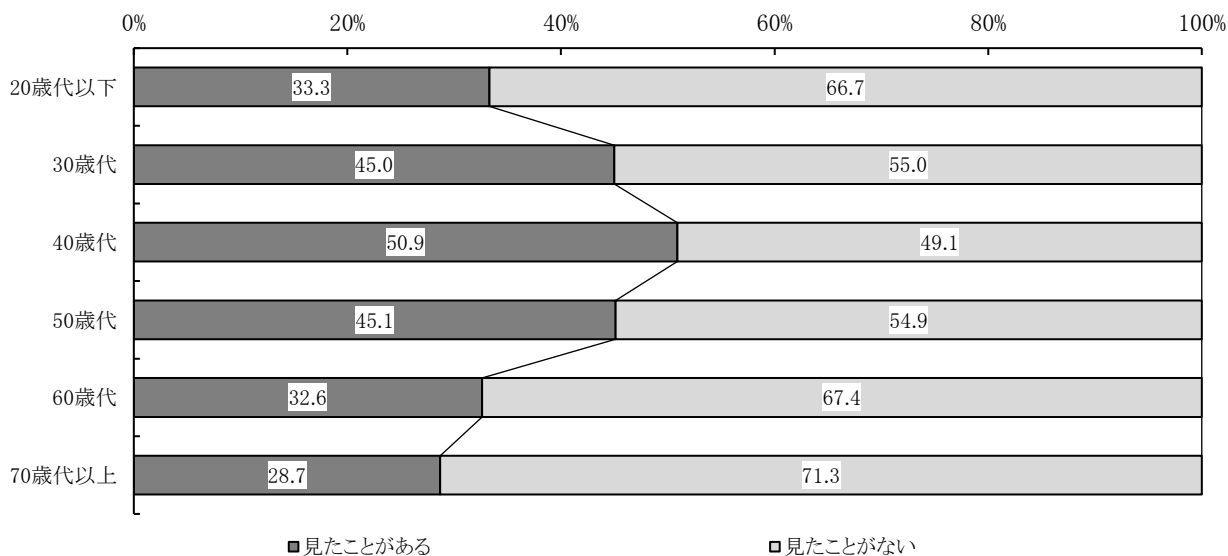
(注) 見たことがあるは、全体からどれも見たことがないと回答した人を除く。
平成16年度調査時点では4番組を放送。

【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「見たことがある」と答えた人の割合が「見たことがない」を下回っており、中でも70歳代以上で他の年齢層と比較して少なくなっている。

また、前回調査と比較すると、「見たことがない」と答えた人の割合は、20歳以下と50歳代以上で増加している。

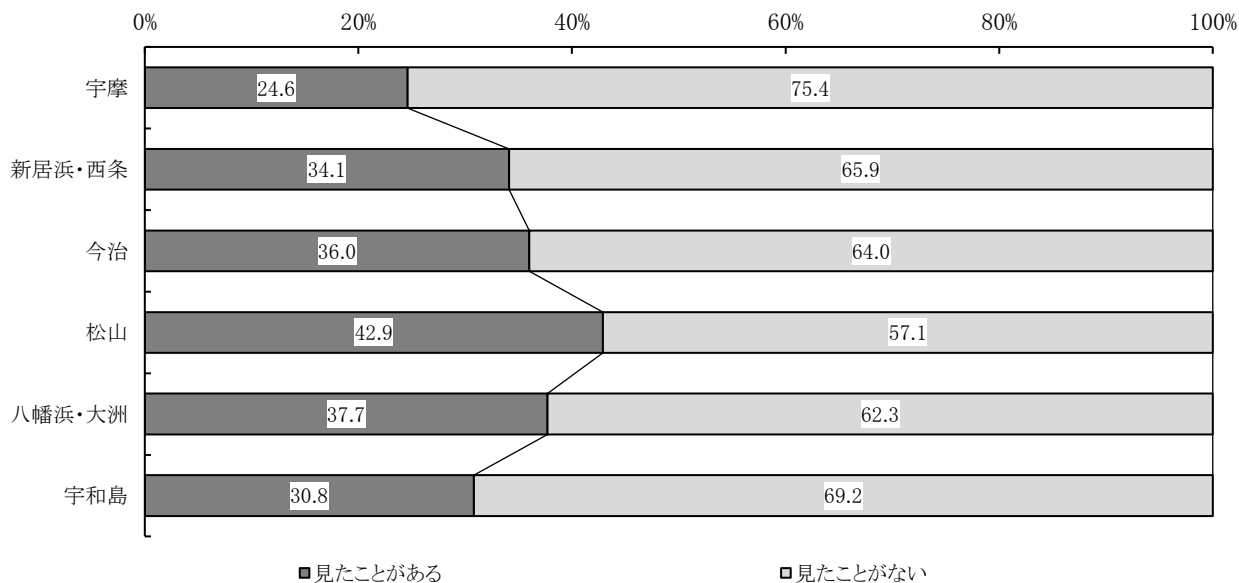
一方、「見たことがある」は、30歳代で9.7ポイント、40歳代で5.0ポイント増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「見たことがある」と答えた人の割合が「見たことがない」を下回っている。

また、前回調査と比較すると、「見たことがある」と答えた人の割合は、全ての圏域で減少しており、特に八幡浜・大洲圏域で11.4ポイント、宇和島圏域で13.9ポイント減少している。

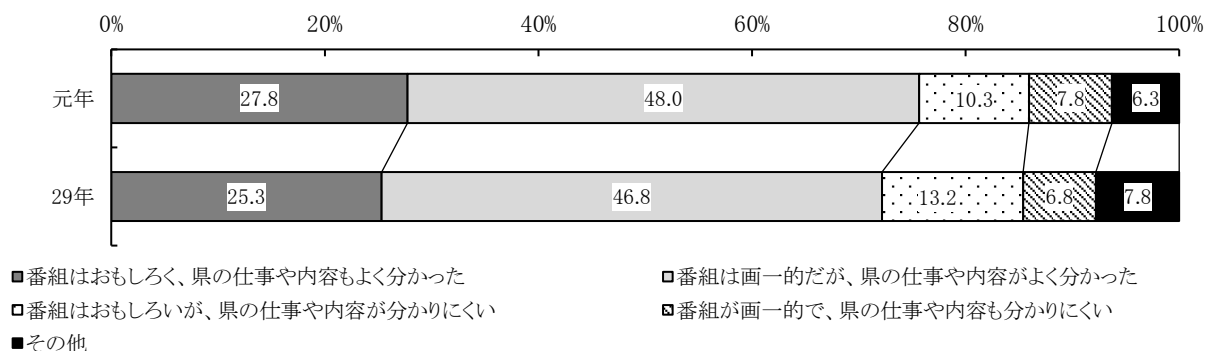


《テレビ広報番組を見ての感想》

県のテレビ広報番組を見たことがあると答えた人に、その感想を聞くと、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が48.0%で特に多く、次いで「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」(27.8%)、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」(10.3%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合が2.5ポイント増加し、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」が2.9ポイント減少している。

なお、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計(75.8%)すると、前回調査より3.7ポイント増加している。

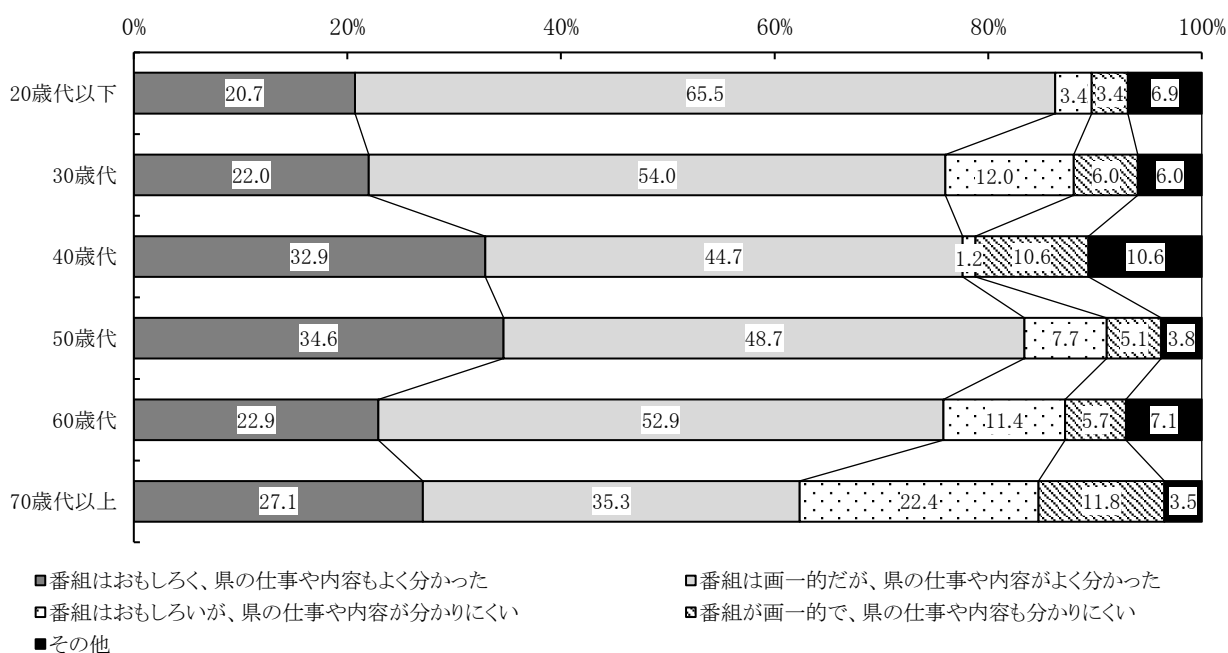


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が最も多く、特に20歳代以下で前回調査より7.9ポイント増加している。

また、50歳代で「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合が前回調査より12.6ポイント増加している。

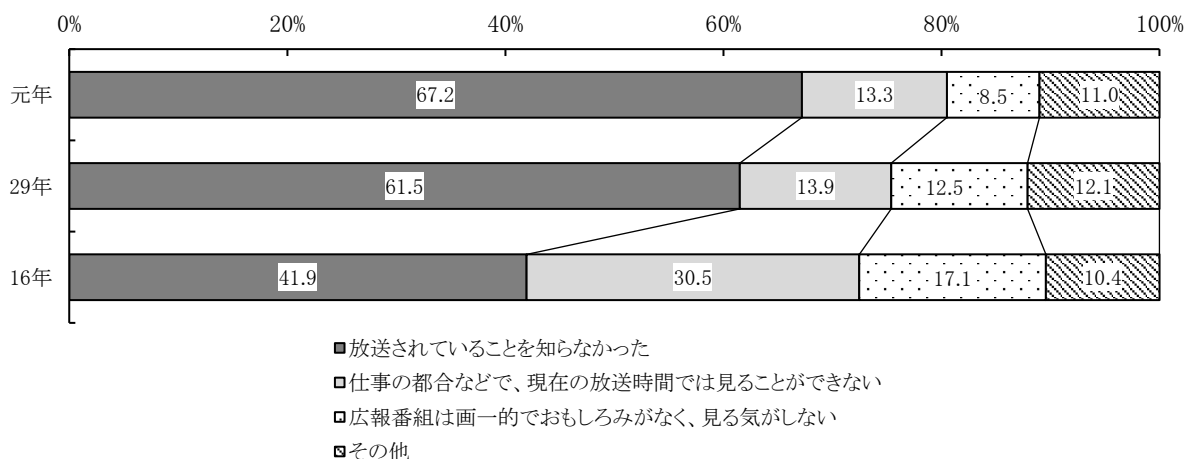
この他、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計すると、全ての年齢層で「県の仕事や内容が分かりにくい」を大幅に上回っており、20歳代以下(86.2%)で特に多くなっている。



《見たことがない理由》

県のテレビ広報番組を「見たことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が67.2%と特に多く、次いで「仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない」(13.3%)、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」(8.5%)となっている。

また、前回調査と比較すると、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合は、5.7ポイント増加し、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」は4.0ポイント減少している。

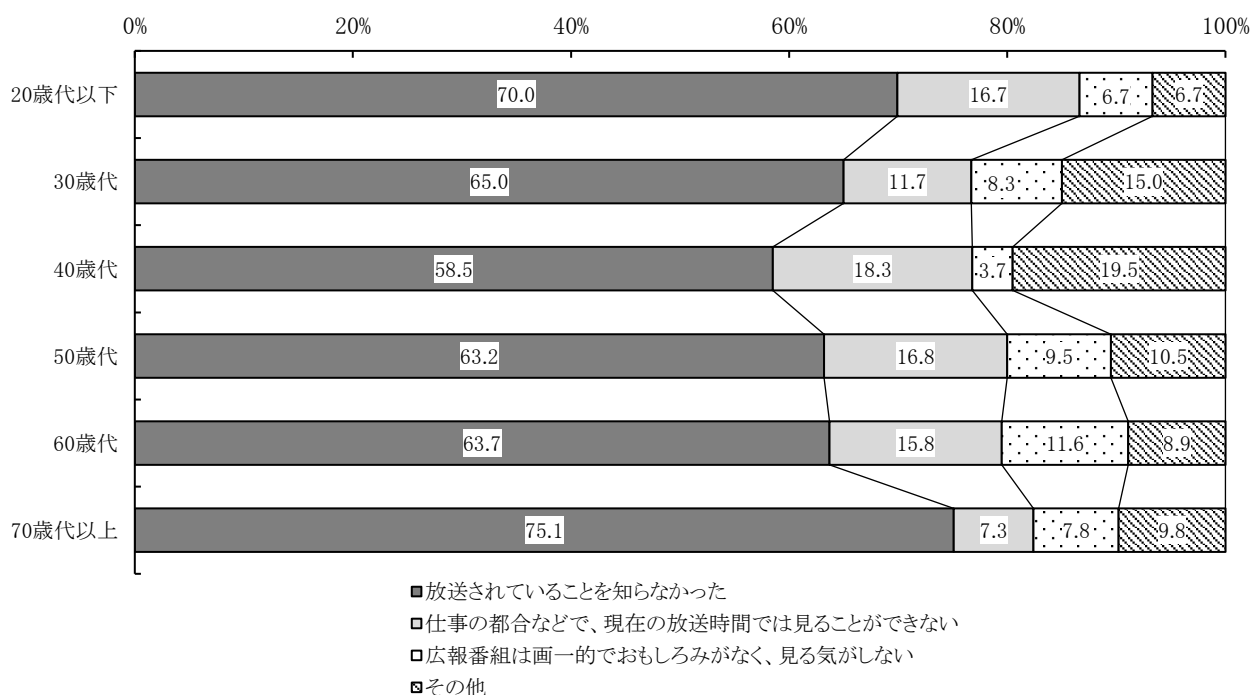


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が最も多く、特に20歳代以下と70歳代以上は多くなっている。

また、40歳代を除く全ての年齢層で、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合は、前回調査より増加している。

この他、前回調査と比較すると「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合は、20歳代以下で11.9ポイント増加している。



問 16 ラジオ広報番組の聴取経験

次にあげる県のラジオ広報番組であなたがお聞きになったことがあるものをいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 FM みきゃんラジオ (FM愛媛) 毎週月～金曜日 11:54～11:55		3.7
2 週刊 みきゃんラジオ (南海放送ラジオ) 毎週土曜日 11:10～11:20		2.6
3 どれも聞いたことがない		94.3

《ラジオ広報番組を聞いての感想》 (回答者=59人)

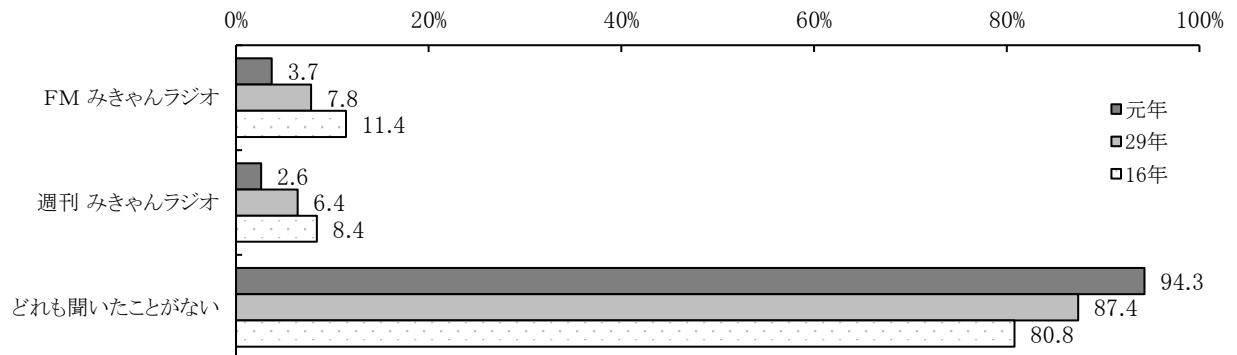
	(単数回答)	(%)
1 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった		35.6
2 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった		47.5
3 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい		15.3
4 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい		0.0
5 その他		1.7

《「どれも聞いたことがない」理由》 (回答者=97人)

	(単数回答)	(%)
1 放送されていることを知らなかった		55.6
2 仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない		14.5
3 広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない		3.0
4 その他		27.0

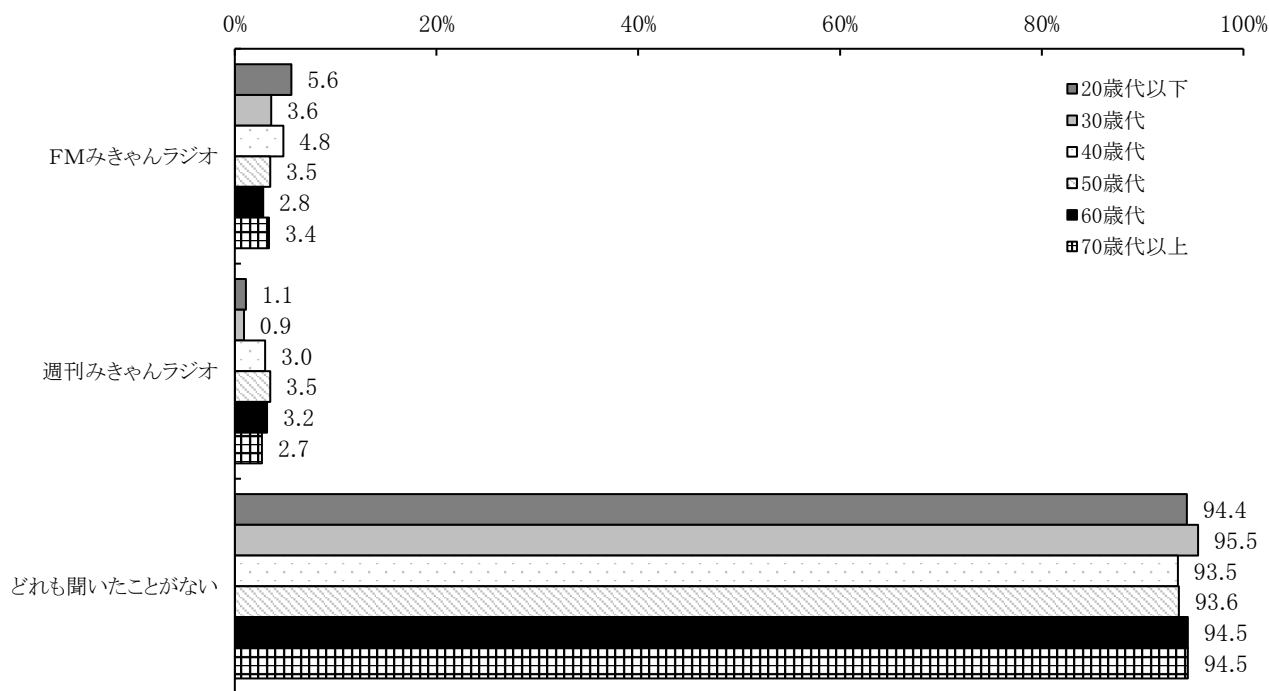
県のラジオ広報番組のうちで、聞いたことがあるものについて聞いたところ、「FM みきゃんラジオ (FM愛媛)」と答えた人の割合が3.7%、「週刊 みきゃんラジオ (南海放送ラジオ)」が2.6%、「どれも聞いたことがない」が94.3%となっている。

また、前回調査と比較すると、「FM みきゃんラジオ (FM愛媛)」と答えた人の割合が、4.1ポイント、「週刊 みきゃんラジオ (南海放送ラジオ)」が3.8ポイント減少しており、「どれも聞いたことがない」が6.9ポイント増加している。



【年齢別】

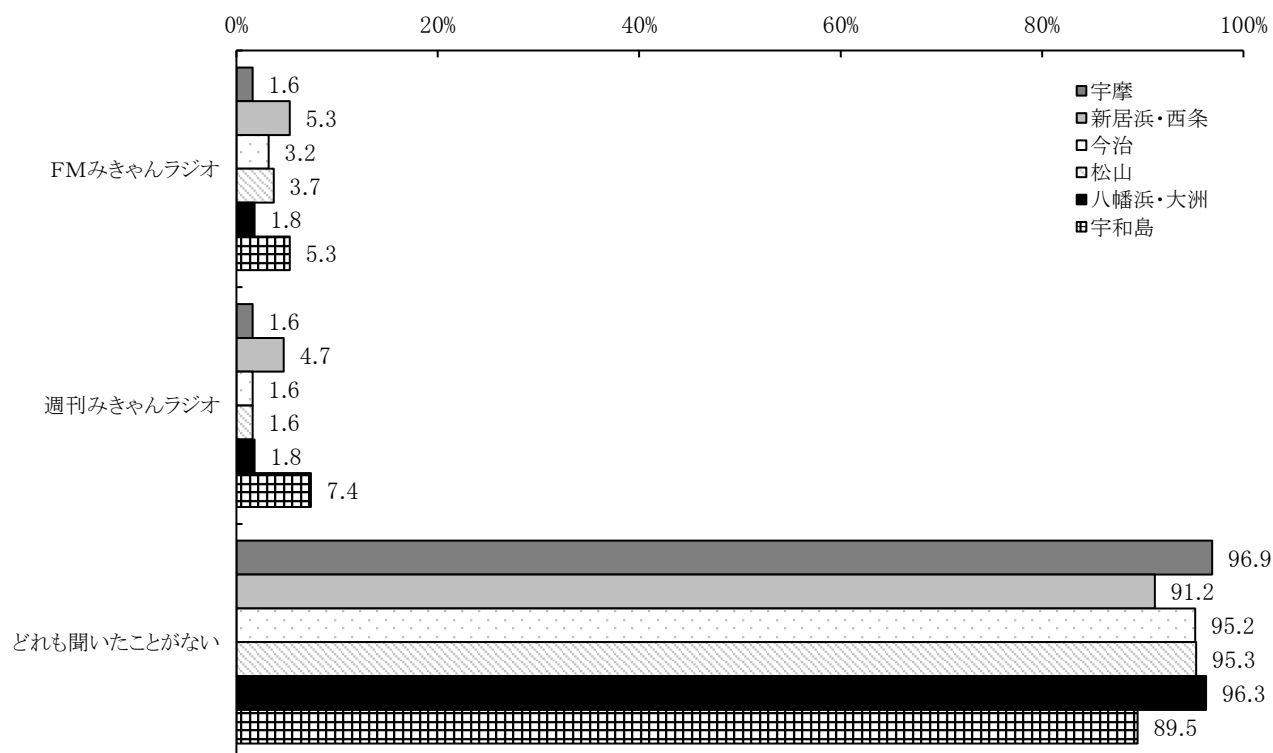
年齢別にみると、全ての年齢層で「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合が圧倒的に多く、9割を超えている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合が圧倒的に多くなっている。

また、「FM みきゃんラジオ (FM愛媛)」及び「週刊 みきゃんラジオ (南海放送ラジオ)」と答えた人の割合は、新居浜・西条圏域と宇和島圏域で他の圏域と比較してやや多くなっている。

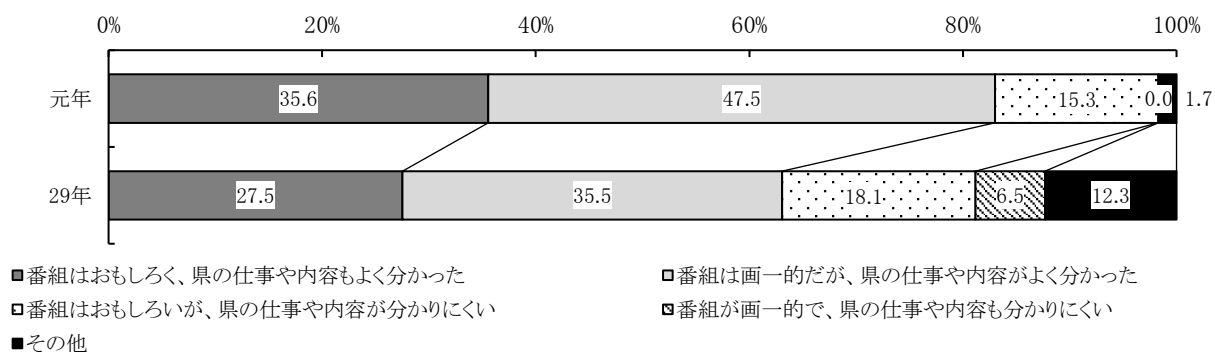


《ラジオ広報番組を聞いての感想》

県のラジオ広報番組を聞いたことがある人に、その感想を聞くと、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が47.5%で最も多く、次いで「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」(35.6%)、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」(15.3%)などの順となっている。

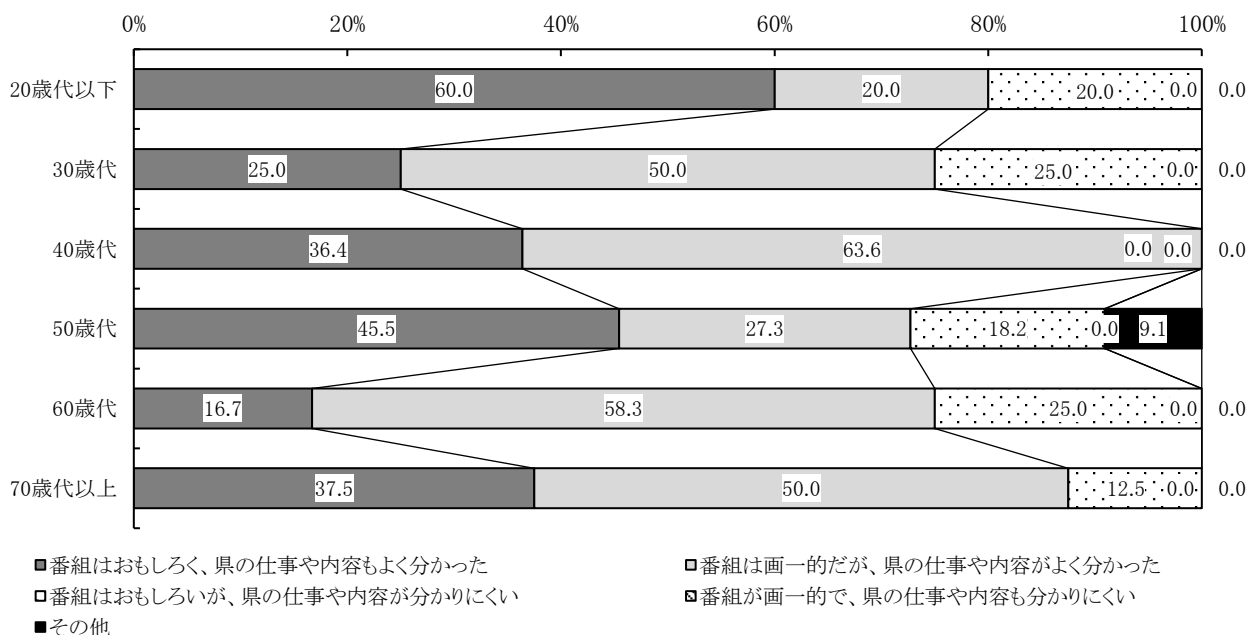
前回調査と比較すると、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が12.0ポイント増加し、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」が8.1ポイント増加している。また、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」が2.8ポイント減少し、「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」が6.5ポイント減少している。

なお、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計すると、83.1%と前回調査より20.1ポイント増加している。



【年齢別】

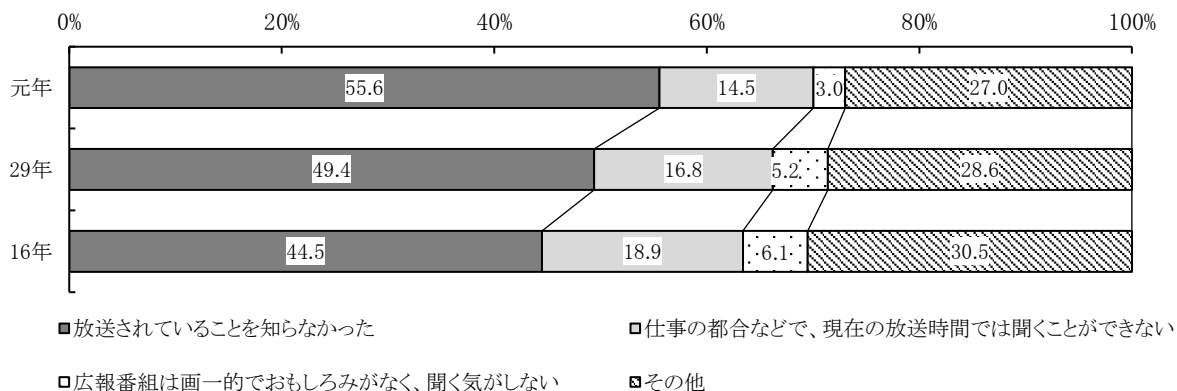
年齢別にみると、20歳代以下及び50歳代を除く全ての年齢層で「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が最も多く、中でも40歳代以下で他の年齢層と比較して特になくなっていく。20歳代及び50歳代は「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」が最も多くなっている。



《聞いたことがない理由》

県のラジオ広報番組について、「どれも聞いたことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が55.6%と最も多く、次いで「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」(14.5%)、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」(3.0%)となっている。

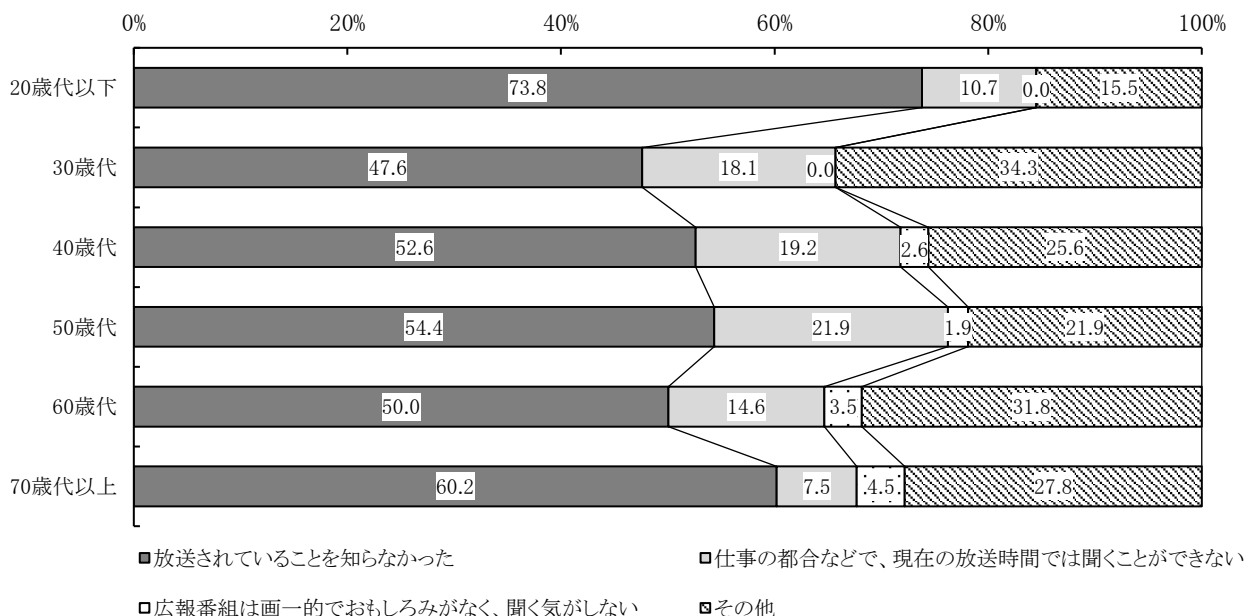
また、前回調査と比較すると、「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」と答えた人の割合は2.3ポイント減少し、「放送されていることを知らなかった」は、6.2ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が最も多くなっている。特に20歳代以下が前回調査と比較して21.4ポイントと大幅に増加している。

また、「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」と答えた人の割合は、70歳代以上で他の年齢層と比較して少なくなっている。



問 17 広報紙の周知度

県では、県政の様々な情報を県民の皆さんにお知らせするため、毎月1回、広報紙「愛顔のえひめ」を発行し、新聞折り込みなどで各ご家庭に直接お届けしています。

あなたは、この広報紙をご存じでしたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 知っていた	55.7
2 知らなかった	44.3

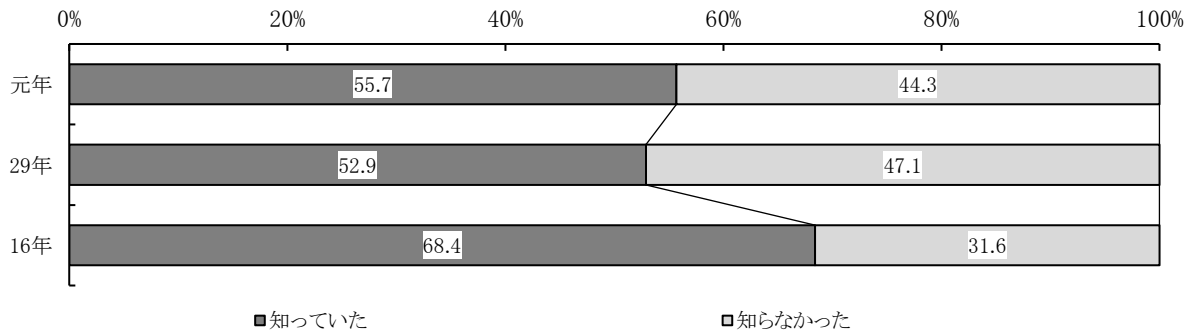
それでは、あなたは、この広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(回答者=591人)	(%)
1 全体をよく読んでいる	17.9	
2 興味のあるところを選んで読んでいる	44.5	
3 見出し程度しか読まない	21.5	
4 ほとんど読むことはない	11.3	
5 まったく読まない	4.7	

《広報紙「愛顔のえひめ」を見ての感想》	(回答者=538人)	(%)
	(単数回答)	(%)
1 紙面は見やすく、情報量も適当である	55.2	
2 紙面は見づらいが、情報量は適当である	13.4	
3 紙面は見やすいが、情報量が少ない	13.4	
4 紙面は見づらく、情報量も少ない	2.8	
5 その他	15.2	

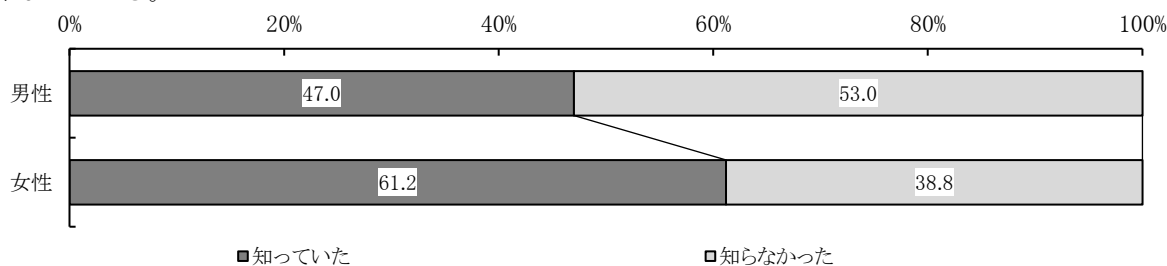
広報紙「愛顔のえひめ」を知っているかどうかを聞いたところ、「知っていた」と答えた人の割合が55.7%で、「知らなかった」の44.3%を11.4ポイント上回っている。

また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が、2.8ポイント増加している。



【性別】

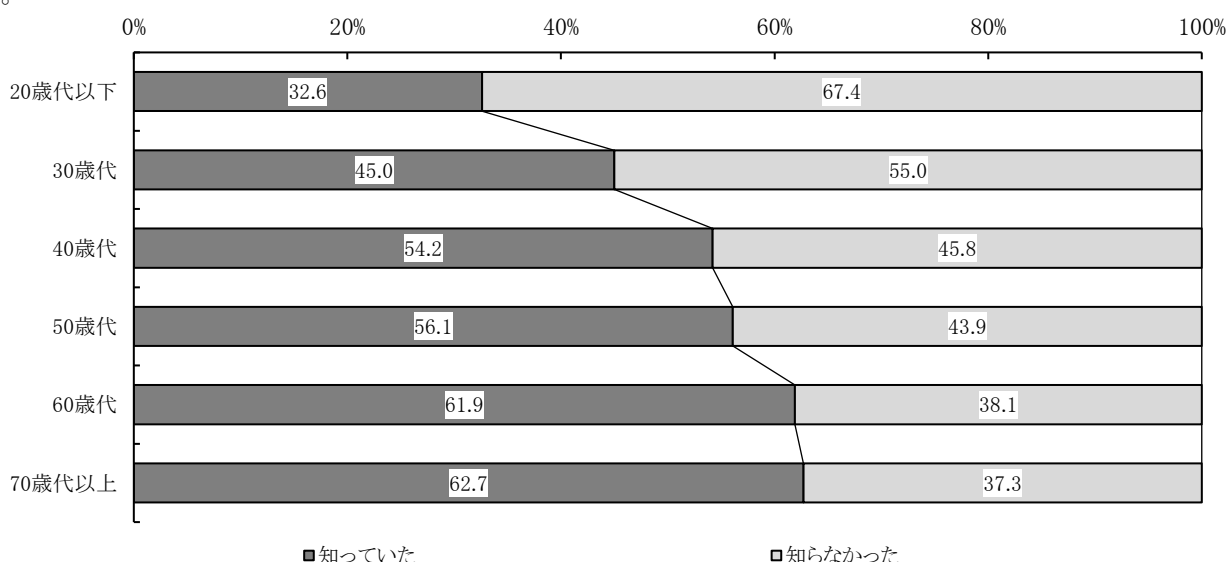
性別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は、女性（61.2%）の方が男性（47.0%）より14.2ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳以上の年齢層で「知っていた」と答えた人の割合が半数を超えており、30歳代以下と比較して多くなっている。

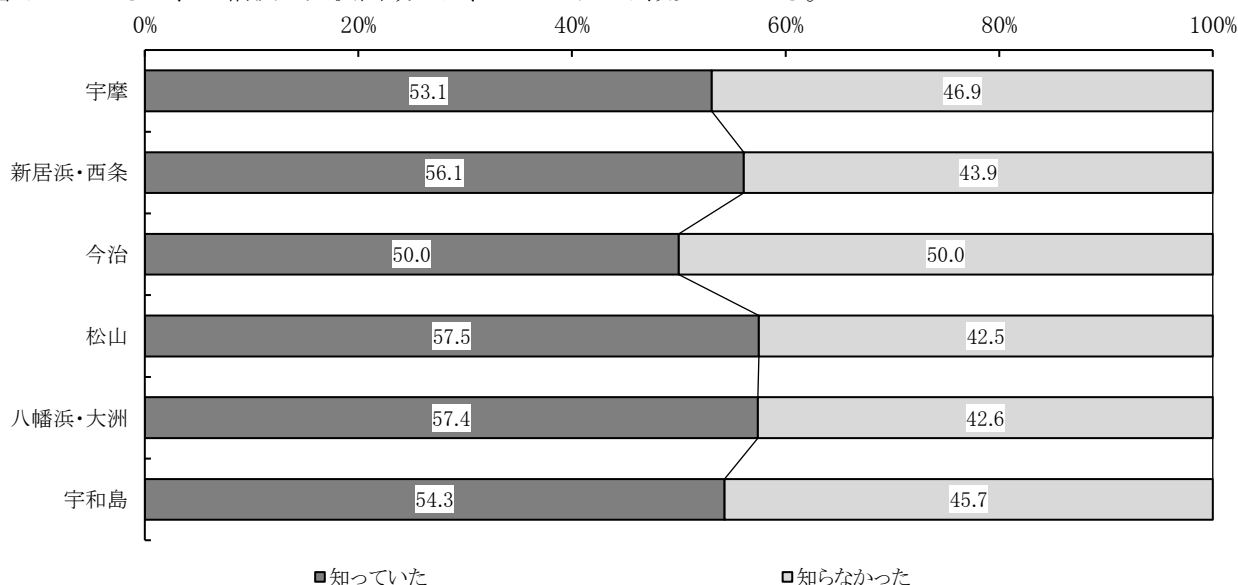
また、30歳代では、「知っていた」と答えた人の割合は前回調査と比較すると、8.4ポイント増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「知っていた」と答えた人は、今治圏域を除く全ての圏域で多くなっている。

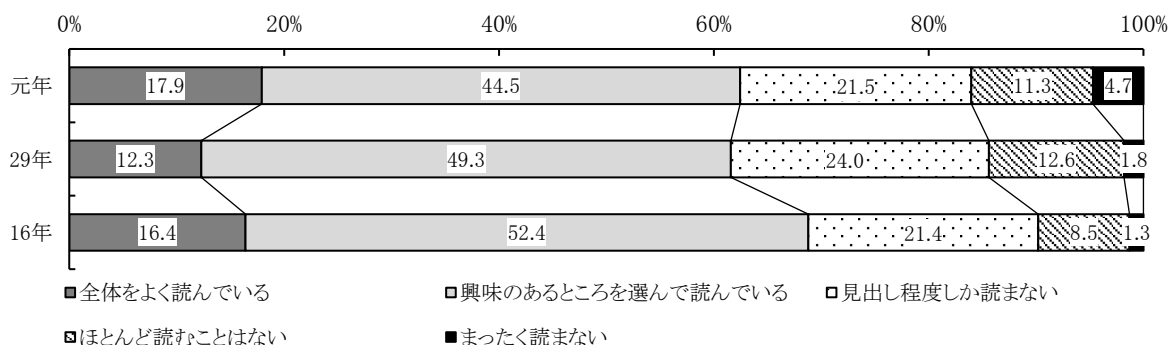
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、新居浜・西条圏域で10.6ポイント増加しているが、八幡浜・大洲圏域では、2.3ポイント減少している。



《広報紙への関心度》

広報紙を「知っていた」と答えた人に、どの程度読んでいるかを聞いたところ、「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が44.5%と特に多く、以下「見出し程度しか読まない」（21.5%）、「全体をよく読んでいる」（17.9%）となっている。

また、前回調査と比較すると、「全体をよく読んでいる」が5.6ポイント増加している。

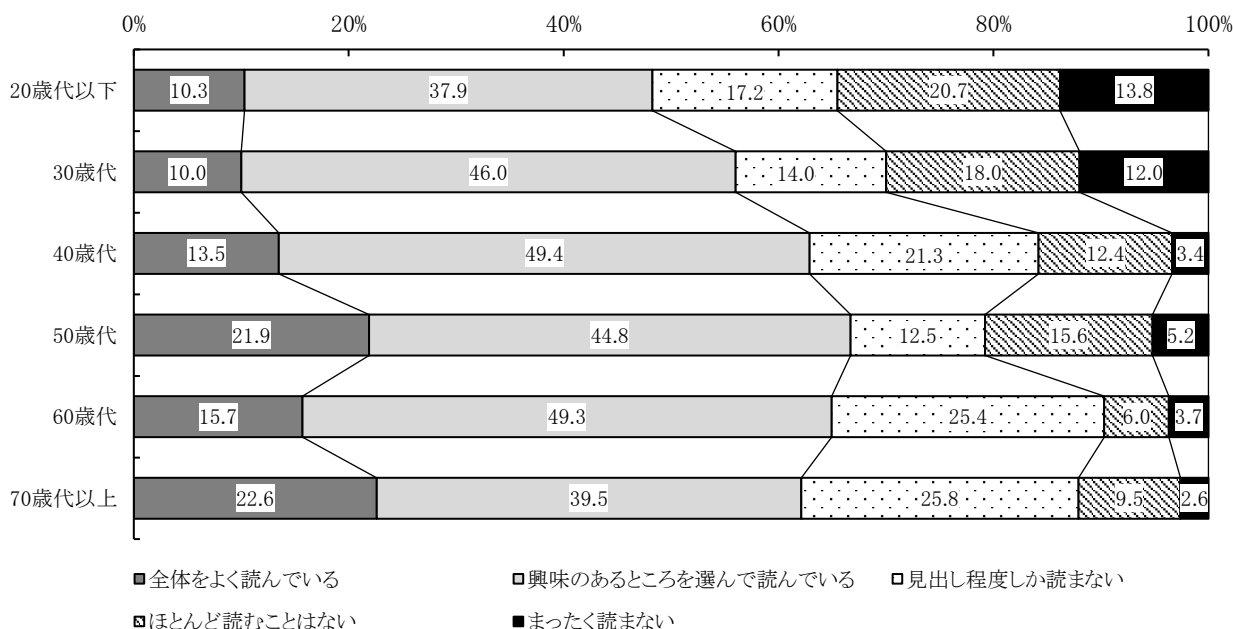


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が最も多く、中でも40歳代（49.4%）及び60歳代（49.3%）で他の年齢層と比較してやや多くなっている。

また、「見出し程度しか読まない」と答えた人の割合は、70歳代以上（25.8%）及び60歳代（25.4%）で他の年齢層と比較してやや多くなっている。

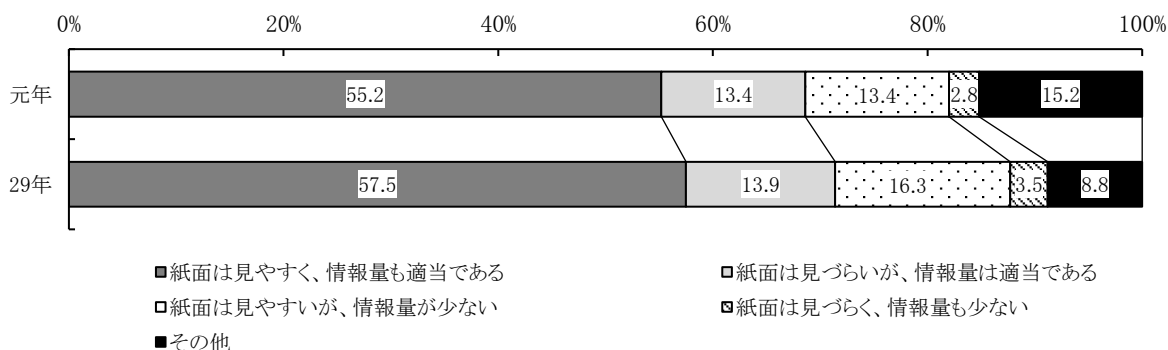
この他、「読まない」（「ほとんど読むことはない」及び「まったく読まない」と答えた人の割合は、20歳代以下で前回調査と比較して18.4ポイント増と特に増加している。



《広報紙を見ての感想》

広報紙を見ての感想を聞いたところ、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が55.2%で特に多く、以下「紙面は見やすいが、情報量が少ない」と「紙面は見づらいが、情報量は適当である」(13.4%)、「紙面は見づらく、情報量も少ない」(2.8%)となっている。

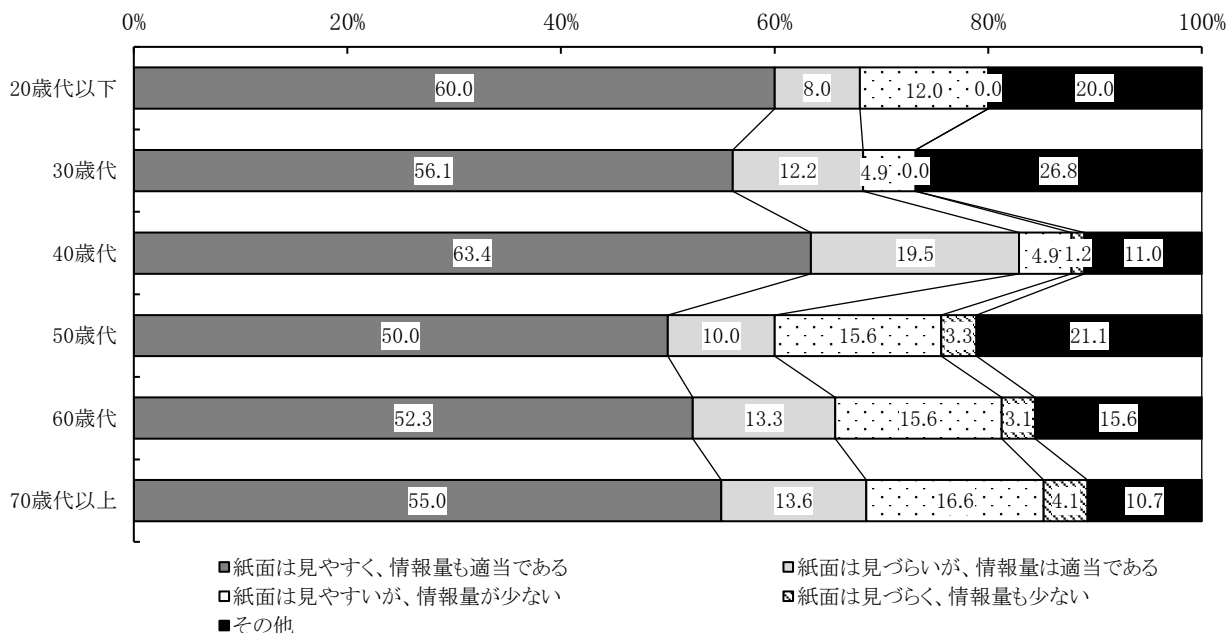
また、前回調査と比較すると、大きな変化はないが、「紙面は見やすいが、情報量が少ない」と答えた人の割合が、2.9ポイント、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が、2.3ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が最も多く、中でも40歳代(63.4%)で他の年齢層と比較して多くなっている。

また、前回調査と比較すると、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合は、20歳代以下で10.0ポイント増加、50歳代では14.0ポイント減少し、「紙面は見づらいが、情報量は適当である」は、40歳代で6.0ポイント増加している。

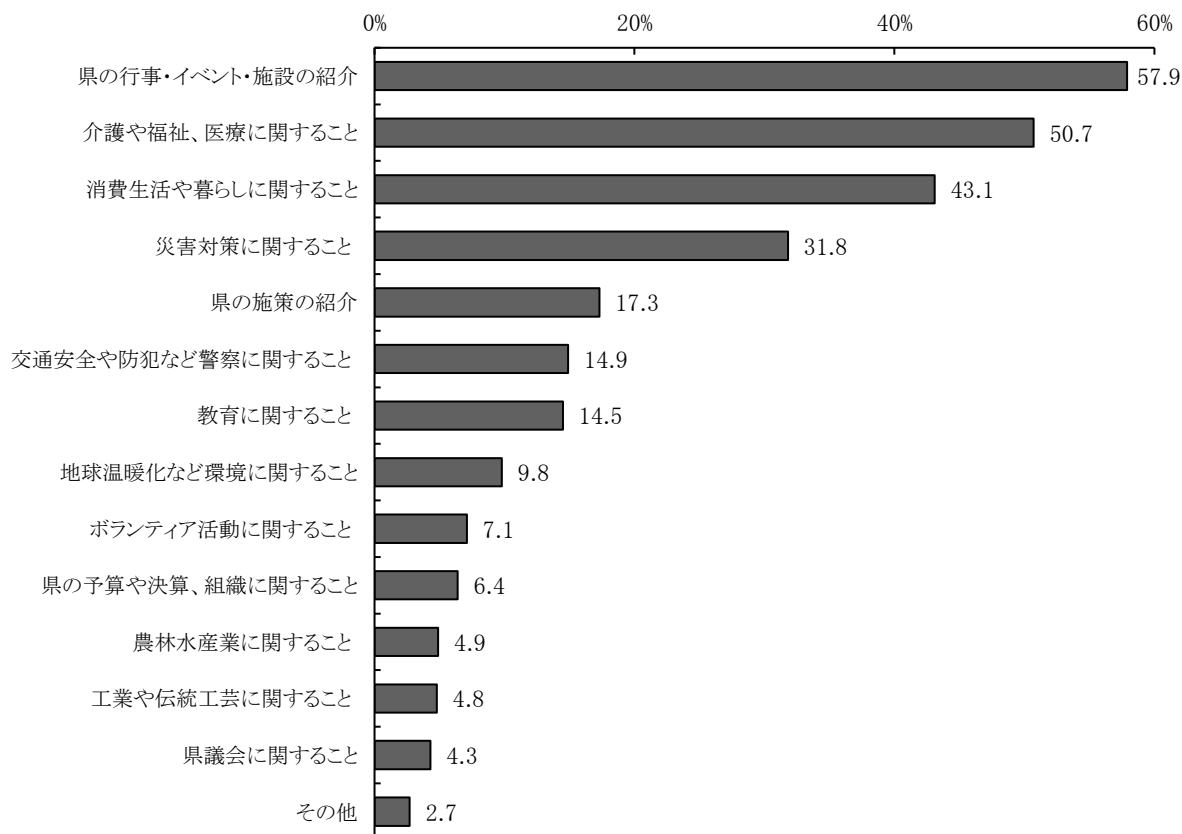


問 18 広報紙で取り上げるテーマの希望

広報紙「愛顔のえひめ」について、今後、どのようなテーマを取り上げてほしいですか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の施策の紹介		17.3
2 県の行事・イベント・施設の紹介		57.9
3 県の予算や決算、組織に関する事		6.4
4 介護や福祉、医療に関する事		50.7
5 教育に関する事		14.5
6 消費生活や暮らしに関する事		43.1
7 地球温暖化など環境に関する事		9.8
8 ボランティア活動に関する事		7.1
9 災害対策に関する事		31.8
10 農林水産業に関する事		4.9
11 工業や伝統工芸に関する事		4.8
12 交通安全や防犯など警察に関する事		14.9
13 県議会に関する事		4.3
14 その他		2.7

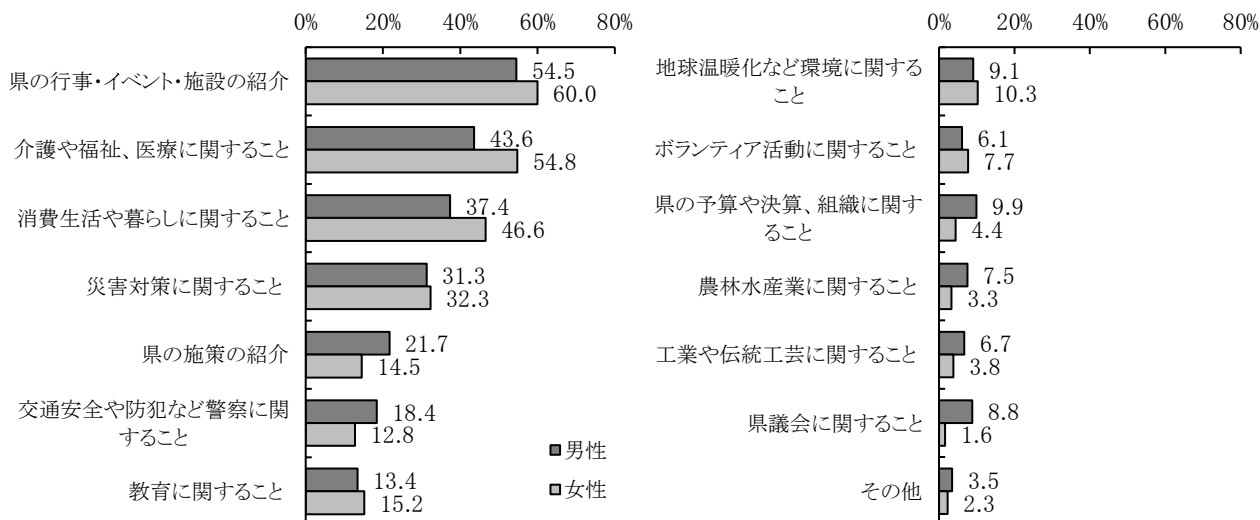
広報紙「愛顔のえひめ」にどのようなテーマを取り上げてほしいかを聞いたところ、「県の行事・イベント・施設の紹介」(57.9%)が最も多く、以下「介護や福祉、医療に関する事」(50.7%)、「消費生活や暮らしに関する事」(43.1%)、「災害対策に関する事」(31.8%)、「県の施策の紹介」(17.3%)、「交通安全や防犯など警察に関する事」(14.9%)、「教育に関する事」(14.5%)などの順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、特に女性（60.0%）の方が男性（54.5%）より5.5ポイント多くなっている。

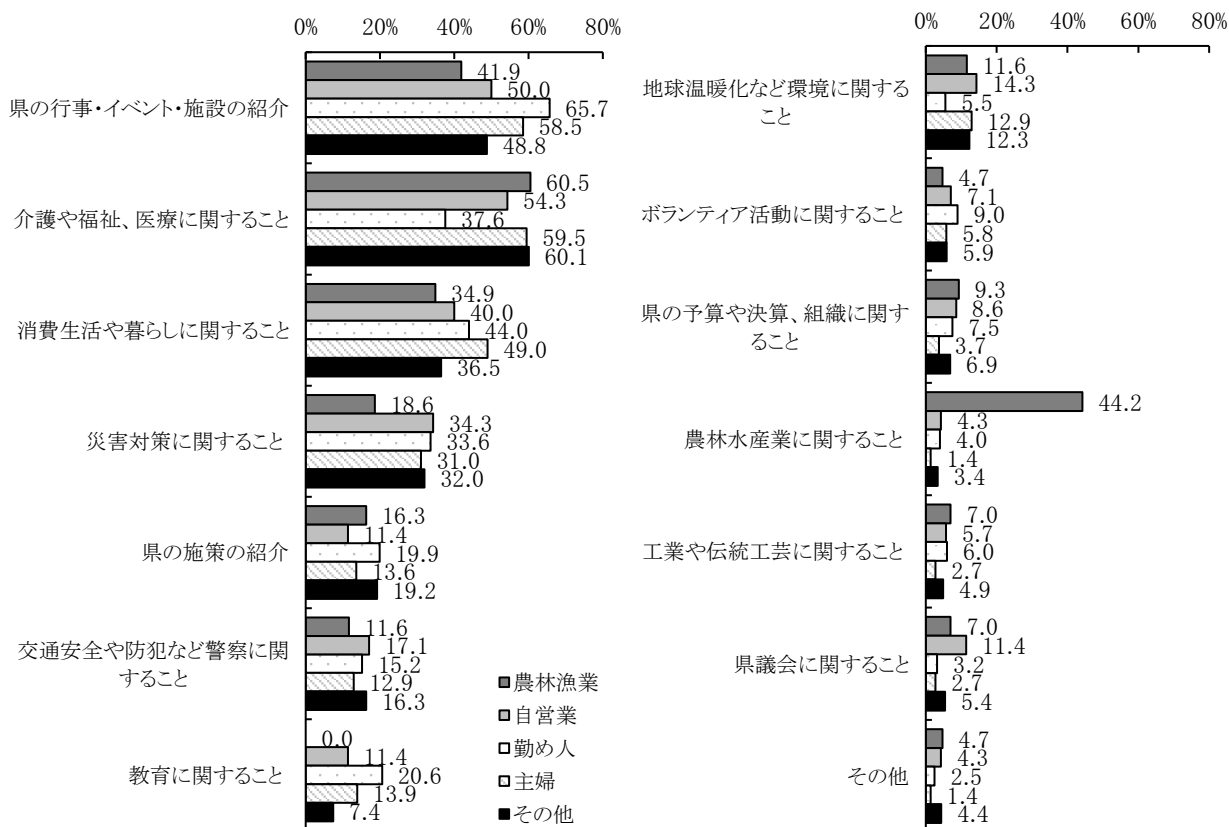
また、他に女性の割合の方が多いのは、「介護や福祉、医療に関すること」、「消費生活や暮らしに関すること」、「教育に関すること」など、男性の方が多いのは、「県の施策の紹介」、「交通安全や防犯など警察に関すること」「県の予算や決算、組織に関すること」、「農林水産業に関すること」、「県議会に関すること」などとなっている。



【職業別】

職業別にみると、勤め人を除く全ての職種で「介護や福祉、医療に関すること」と答えた人の割合が最も多く、勤め人では「県の行事・イベント・施設の紹介」が最も多くなっている。

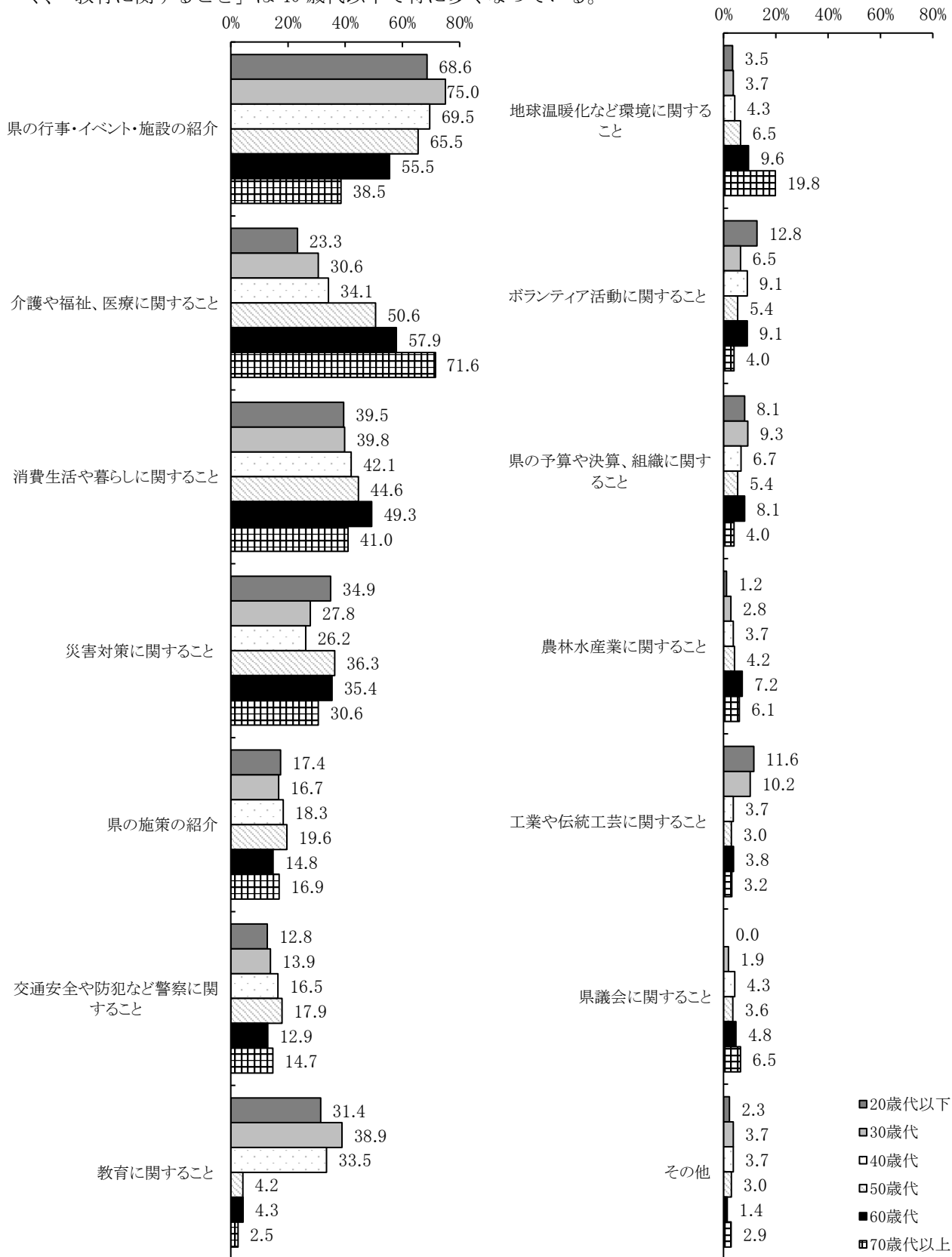
また、農林漁業では「農林水産業に関すること」と答えた人の割合が、他の職種に比べて特に多くなっているが、「教育に関すること」は、他の職種に比べて特に少なくなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下では「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、60歳代以上では「介護や福祉、医療に関すること」が最も多くなっている。

また、「介護や福祉、医療に関すること」と答えた人の割合は、50歳代以上で他の年齢層と比較して多く、「教育に関すること」は40歳代以下で特に多くなっている。



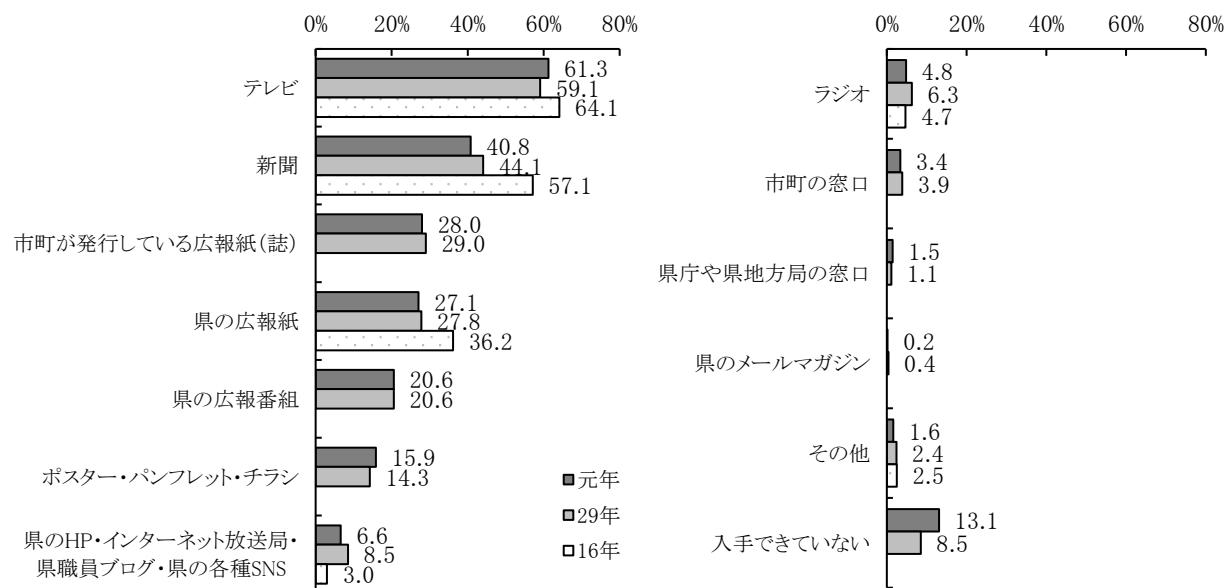
問 19 県政情報の情報源

あなたは、県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いですか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の広報紙		27.1
2 県の広報番組 (テレビ・ラジオ)		20.6
3 新聞		40.8
4 テレビ		61.3
5 ラジオ		4.8
6 県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログ (インターネット)・県の各種 SNS (Facebook、Twitter、Instagram)		6.6
7 県のメールマガジン		0.2
8 ポスター・パンフレット・チラシ		15.9
9 県庁や県地方局の窓口		1.5
10 市町の窓口		3.4
11 市町が発行している広報紙 (誌)		28.0
12 その他		1.6
13 入手できていない		13.1

県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いかを聞いたところ、「テレビ」と答えた人の割合が61.3%で最も多く、以下「新聞」(40.8%)、「市町が発行している広報紙 (誌)」(28.0%)、「県の広報紙」(27.1%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「ポスター・パンフレット・チラシ」と答えた人の割合が1.6ポイント増加し、「新聞」が3.3ポイント減少している。

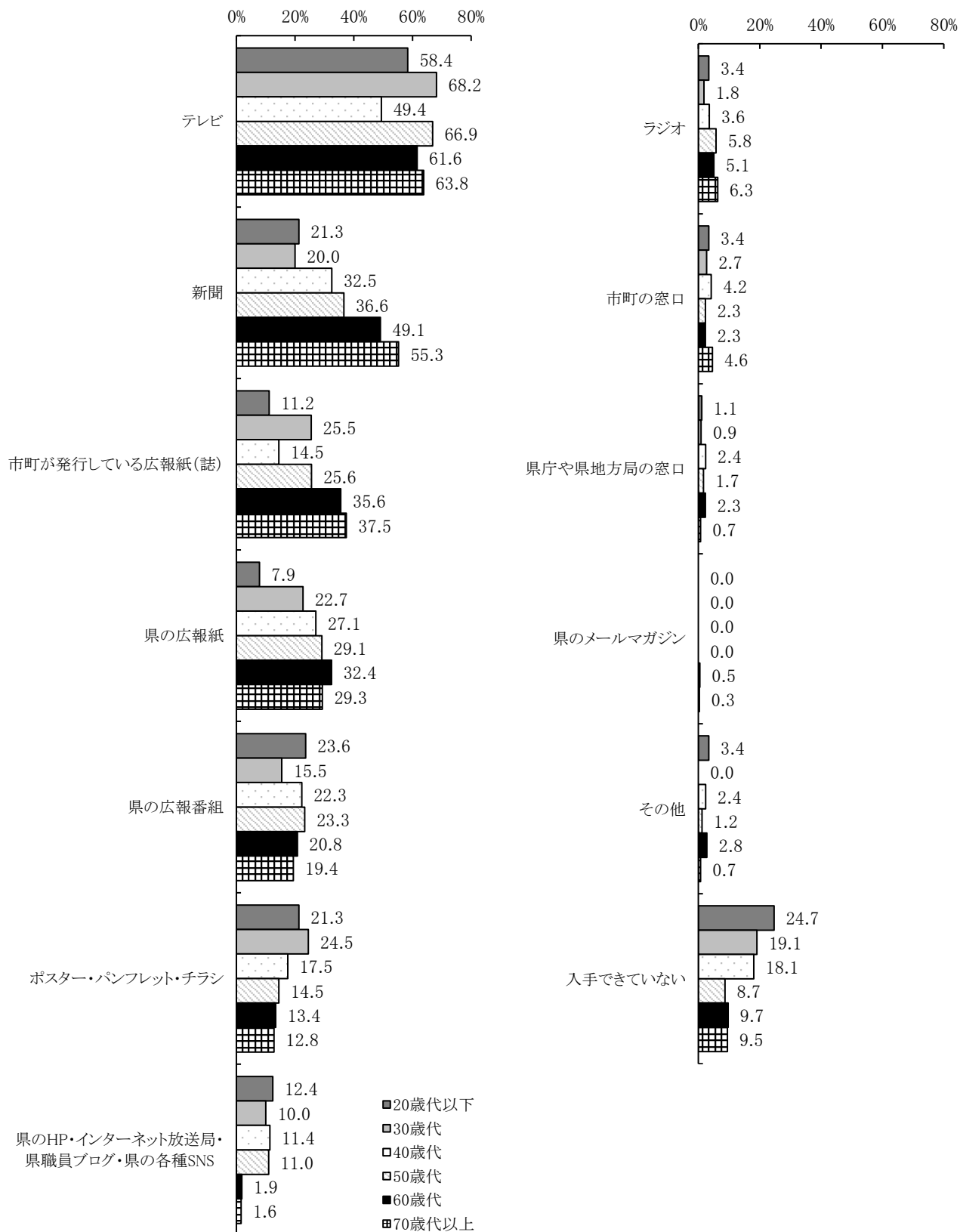


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「テレビ」と答えた人の割合が、最も多くなっている。

また、「新聞」と答えた人の割合は70歳以上では55%を超えているが、30歳代以下では30%以下となっている。

この他、「市町が発行している広報紙（誌）」と答えた人の割合は、60歳代以上で他の年齢層と比較して多く、「県の広報紙」は、60歳代で多くなっている。「ポスター・パンフレット・チラシ」は、30歳代以下で多くなっている。

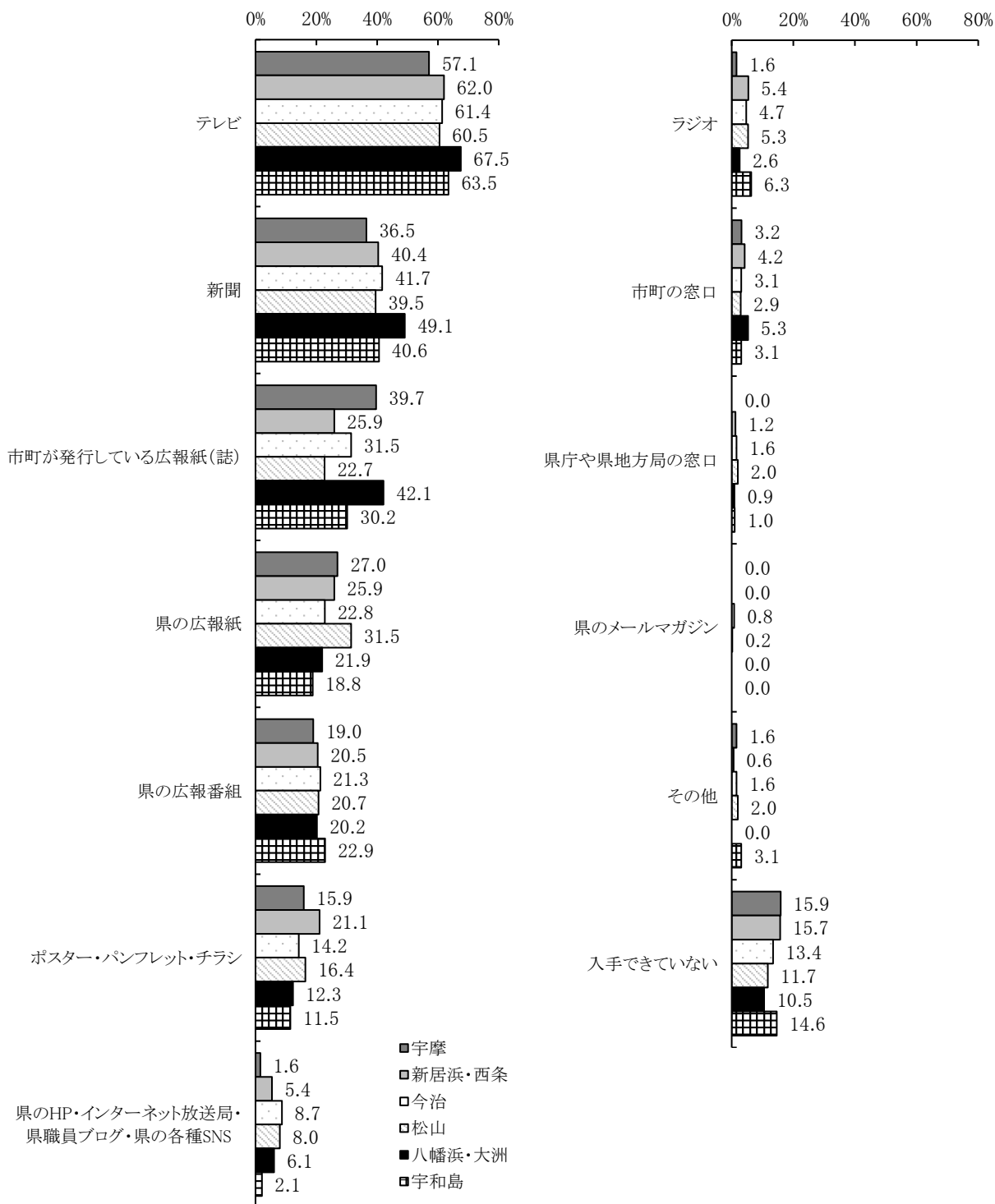


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「テレビ」と答えた人の割合が最も多く、前回調査と比較すると、宇和圏域及び新居浜・西条圏域を除く全ての圏域で多くなっている。

また、前回調査と比較すると「新聞」と答えた人の割合が、今治圏域では7.2ポイント増加、宇和島圏域では11.5ポイントと特に減少している。

その他、八幡浜・大洲圏域及び宇摩圏域では「市町が発行している広報紙（誌）」と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。松山圏域では、「県の広報紙」が、他の圏域と比較して多くなっている。

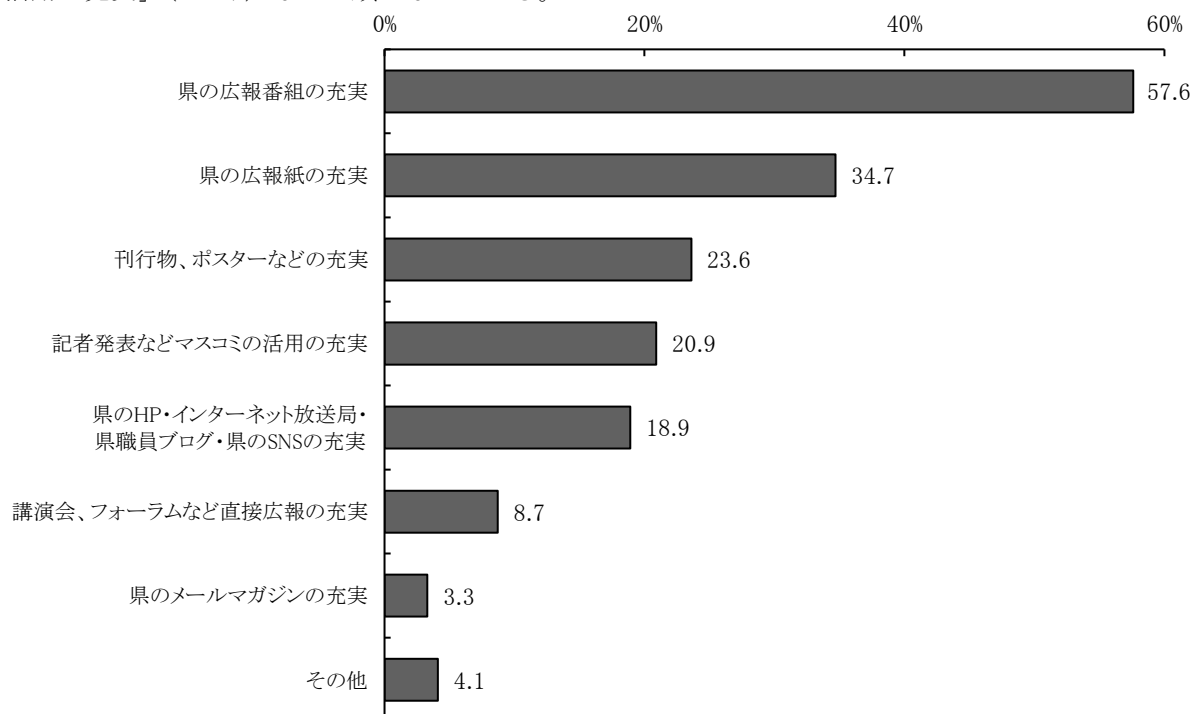


問 20 今後の広報活動の取組み

あなたは、より多くの県民の方が県政に関する情報を得るためには、どのような広報に取り組みれば良いと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の広報紙の充実（発行回数やページ数の増）		34.7
2 県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実 （放送回数や放送時間の増）		57.6
3 記者発表などマスコミの活用の充実		20.9
4 講演会、フォーラム、県政出前講座など直接広報の充実		8.7
5 県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログ・ 県の各種 SNS の充実		18.9
6 県のメールマガジンの充実（発行回数や掲載項目の増）		3.3
7 刊行物、ポスター、パンフレットの充実（種類や部数の増）		23.6
8 その他		4.1

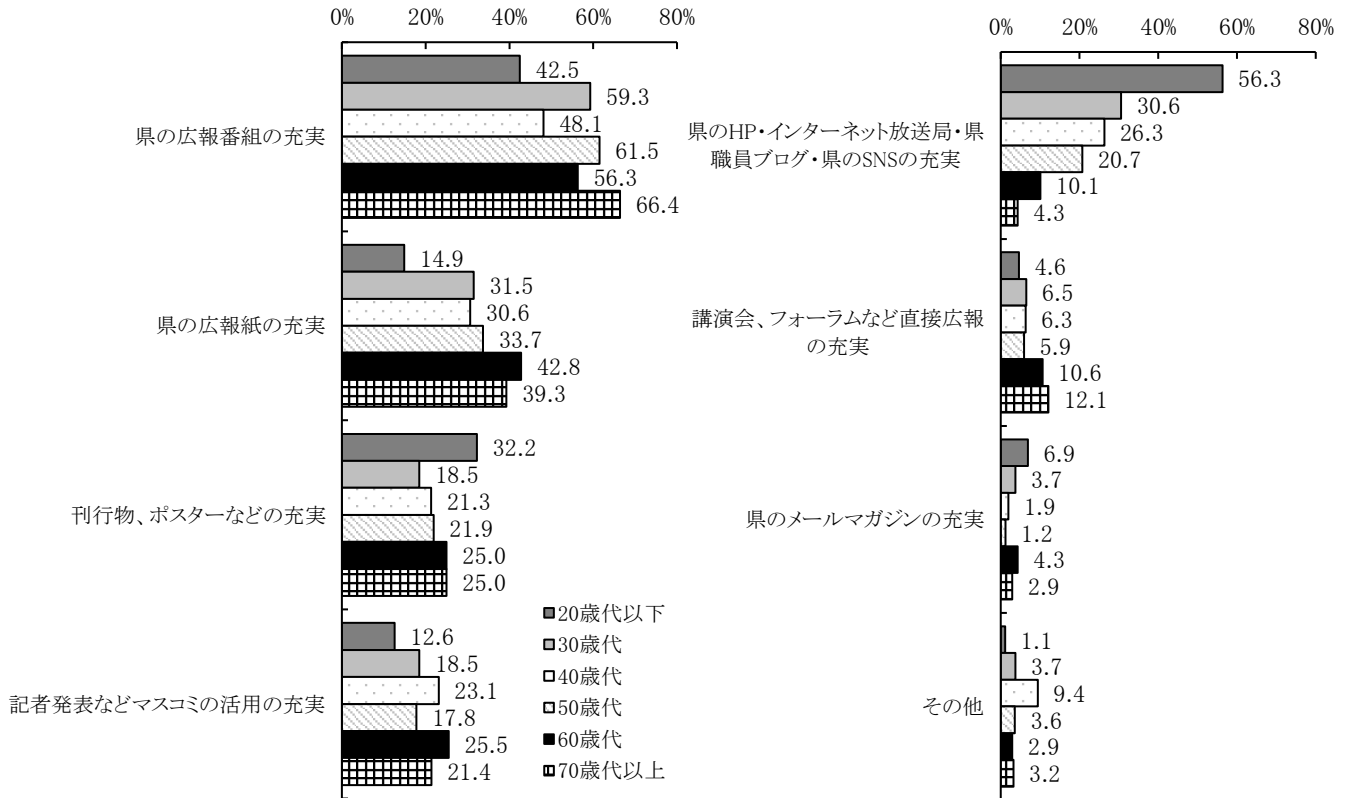
より多くの県民の方が県政に関する情報を得るためには、どのような広報に取り組みれば良いと思うかを聞いたところ、「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が、57.6%と最も多く、以下「県の広報紙の充実」（34.7%）、「刊行物、ポスター、パンフレットの充実」（23.6%）、「記者発表などマスコミの活用の充実」（20.9%）などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、50歳代と70歳代以上で6割を超えている。「県の広報紙の充実」と答えた人の割合は、60歳代で多く、「刊行物、ポスター、パンフレットの充実」は20歳代以下で特に多く、「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログの充実」は、年齢層が低いほど多くなっている。

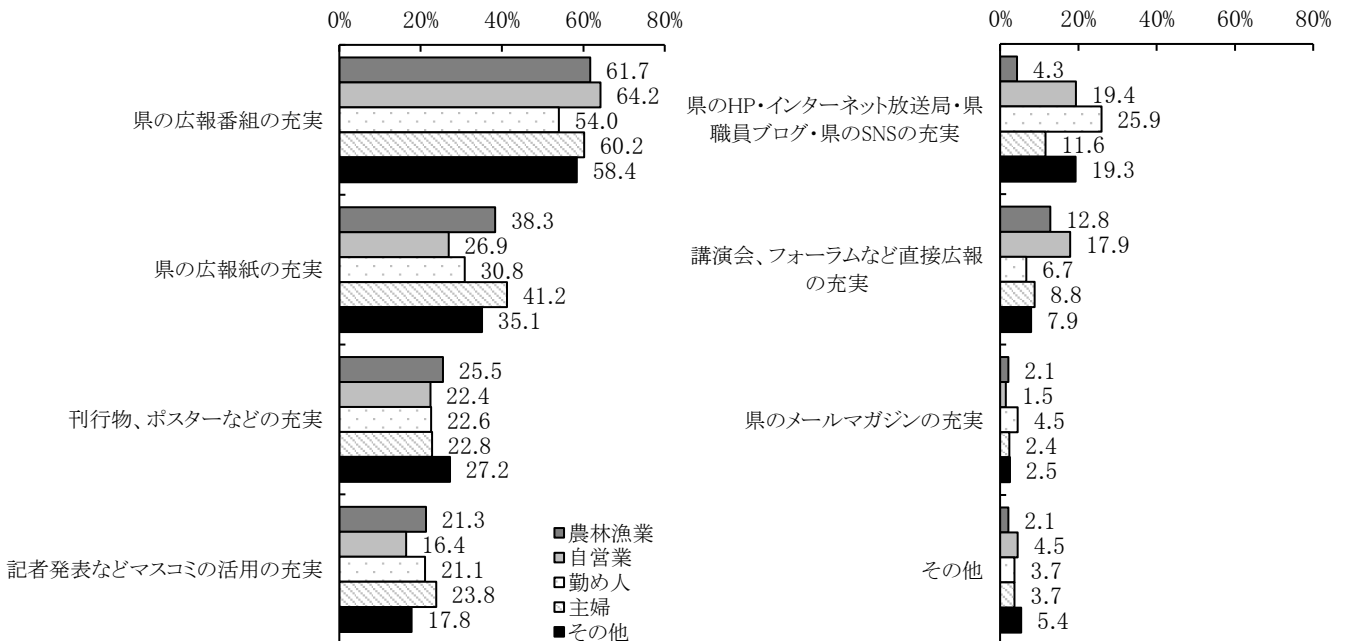
また、「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログの充実」は前回調査と比較すると、60歳代以下で増加しており、特に20歳代以下では34.0ポイントと大幅に増加している。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも自営業（64.2%）で他の職種と比較して多くなっている。

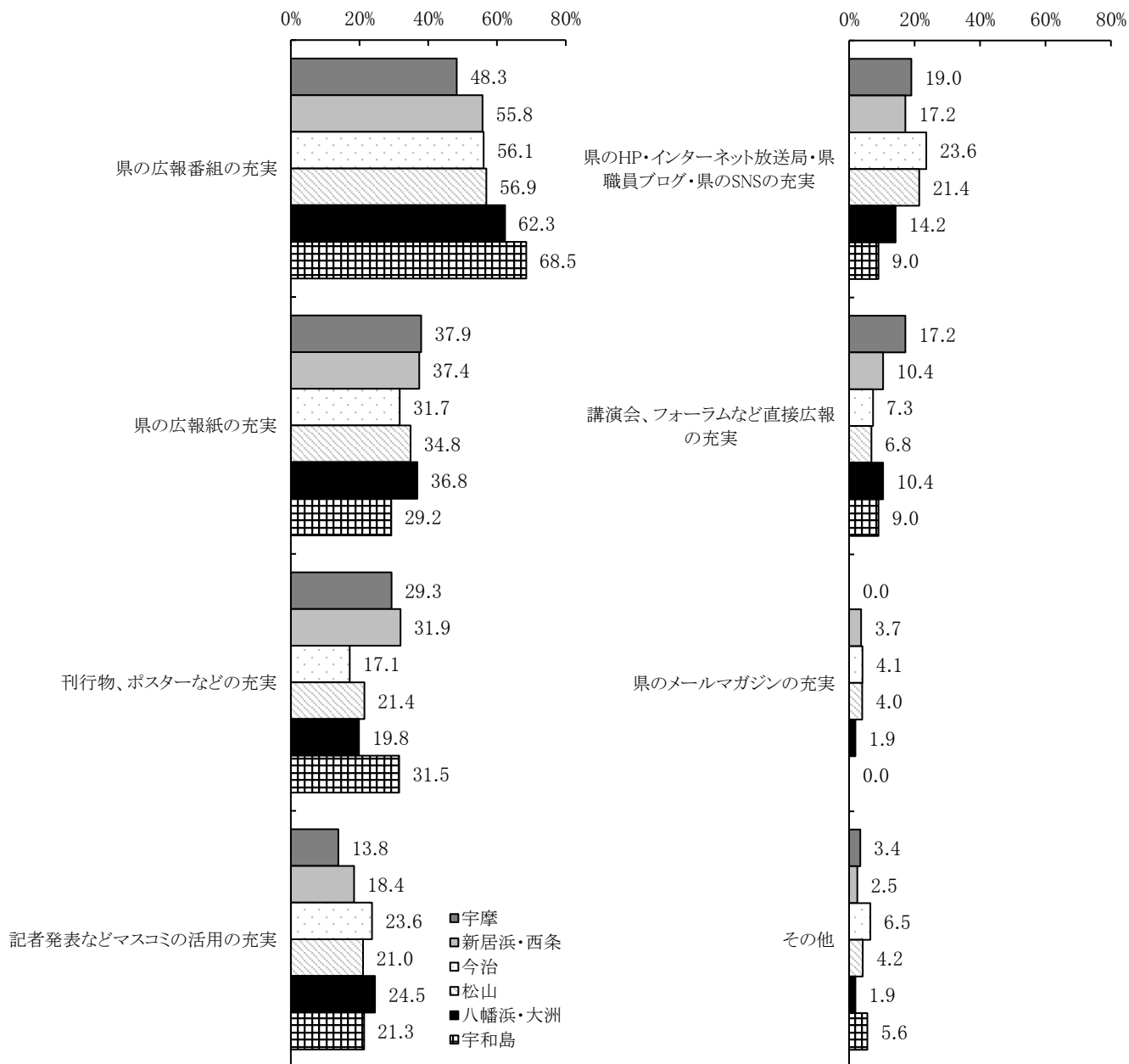
また、「県の広報紙の充実」は主婦（41.2%）で、「県のHP・インターネット放送局・県職員ブログ・県のSNSの充実」は勤め人（25.9%）で、他の職種と比較して特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、特に宇和島圏域及び八幡浜・大洲圏域では6割を超えている。

また、「県の広報紙の充実」と答えた人の割合は、他の圏域と比較して宇和島圏域（29.2%）で少なく、「刊行物、ポスター、パンフレットの充実」は新居浜・西条圏域（31.9%）及び宇和島圏域（31.5%）で多く、「講演会、フォーラムなど直接広報の充実」は宇摩圏域（17.2%）で多くなっている。



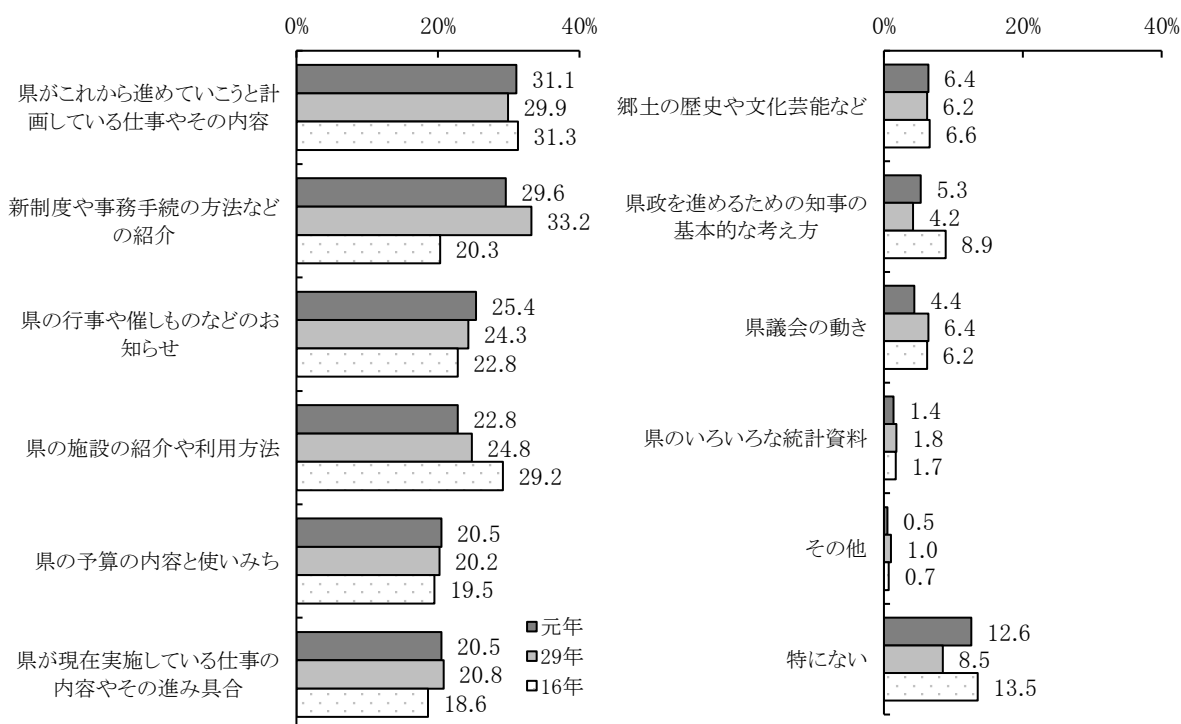
問 21 県政について知りたい情報

あなたが、県政について日ごろから特に知りたいと思っていることはどのようなことですか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県議会の動き		4.4
2 県の予算の内容と使いみち		20.5
3 県が現在実施している仕事の内容やその進み具合		20.5
4 新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介		29.6
5 県の施設の紹介や利用方法		22.8
6 県の行事や催しものなどのお知らせ		25.4
7 郷土の歴史や文化芸能など		6.4
8 県のいろいろな統計資料		1.4
9 県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容		31.1
10 県政を進めるための知事の基本的な考え方		5.3
11 その他		0.5
12 特にない		12.6

県政について日ごろから特に知りたいと思っていることを聞いたところ、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が、31.1%と最も多く、以下「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」(29.6%)、「県の行事や催しものなどのお知らせ」(25.4%)、「県の施設の紹介や利用方法」(22.8%)、「県の予算の内容と使いみち」(20.5%)、「県が現在実施している仕事の内容やその進み具合」(20.5%)などの順となっている。

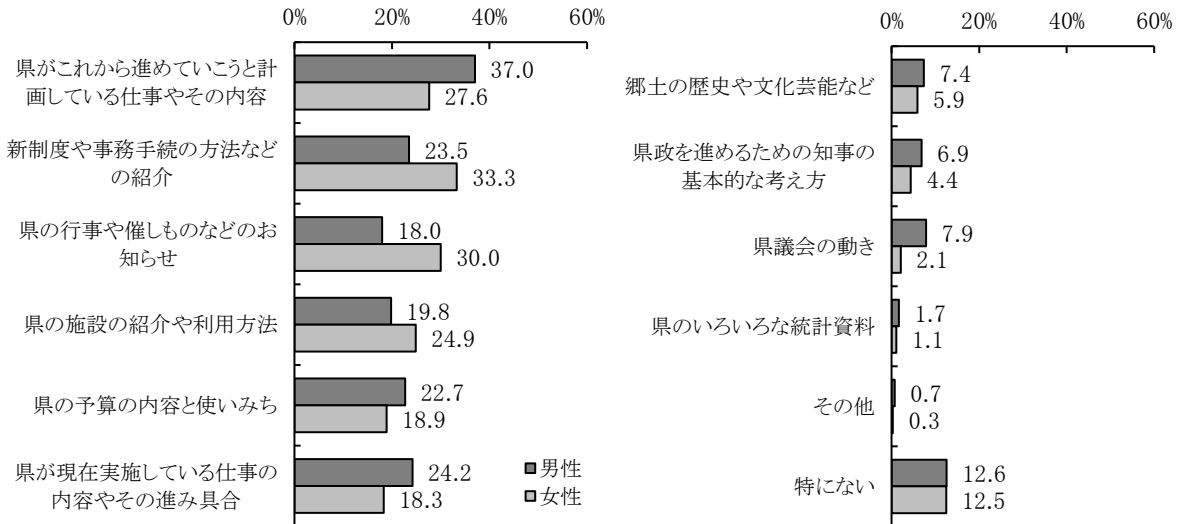
また、前回調査と比較すると、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合が、3.6ポイント減少している。



【性別】

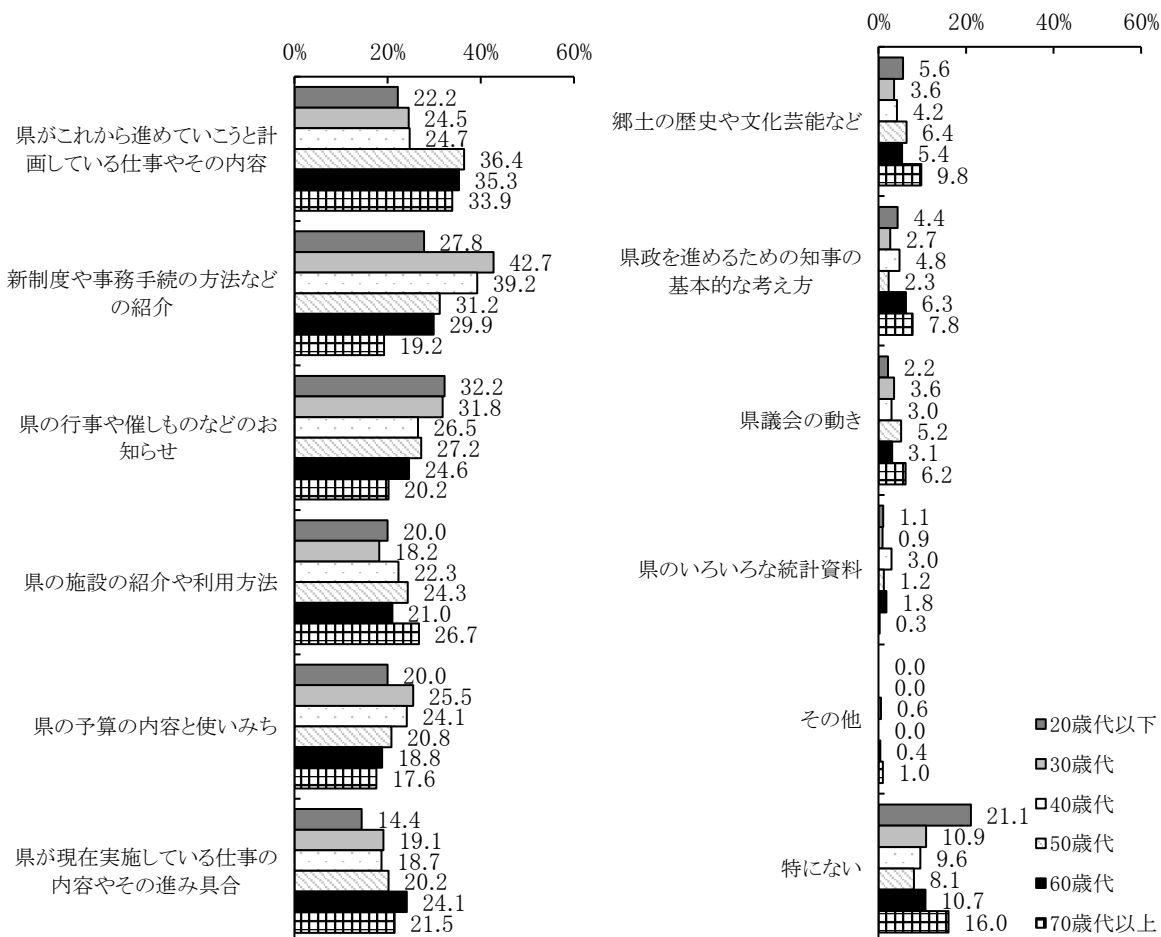
性別にみると、男性では「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」(37.0%)と答えた人の割合が最も多く、女性より9.4ポイント多くなっているが、女性では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」(33.3%)が最も多く、男性より9.8ポイント多くなっている。

また、「県の施設の紹介や利用方法」、「県の行事や催しものなどのお知らせ」と答えた人の割合は女性の方が多くなっているが、それ以外の項目では男性の方が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下では、「県の行事や催しものなどのお知らせ」と答えた人の割合が最も多くなっている。30歳代及び40歳代では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合が最も多くなっている。50歳代以上では「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が最も多くなっている。



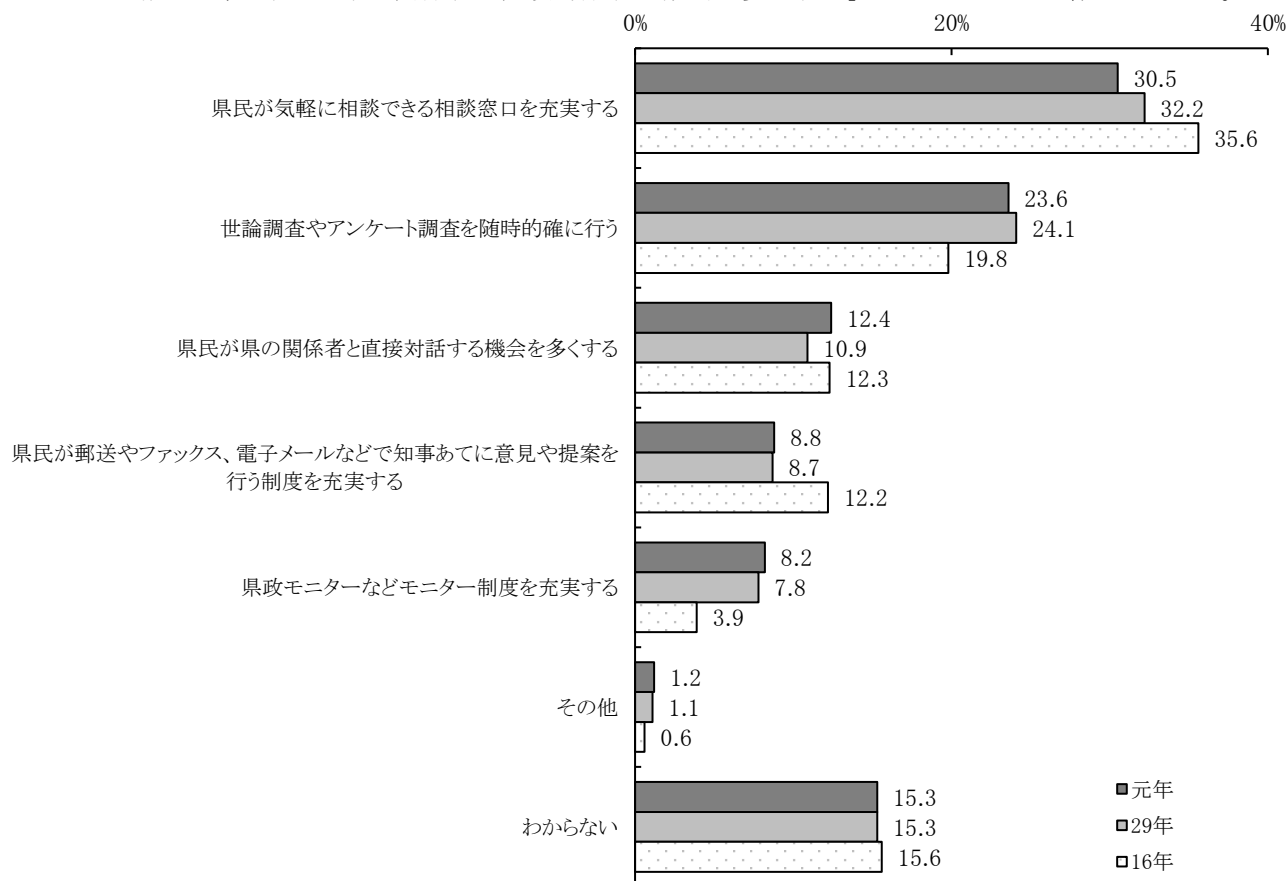
問 22 県民の声を県政に反映させる手段

あなたは、県民の皆さんからの意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われるものは何ですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 世論調査やアンケート調査を随時的確に行う	23.6
2 県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする	12.4
3 県政モニターなどモニター制度を充実する	8.2
4 県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する	8.8
5 県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する	30.5
6 その他	1.2
7 わからない	15.3

県民の意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われる方法を聞いたところ、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が30.5%と最も多く、以下「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」(23.6%)、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」(12.4%)、「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」(8.8%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が1.7ポイント減少し、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」が1.5ポイント増加している。

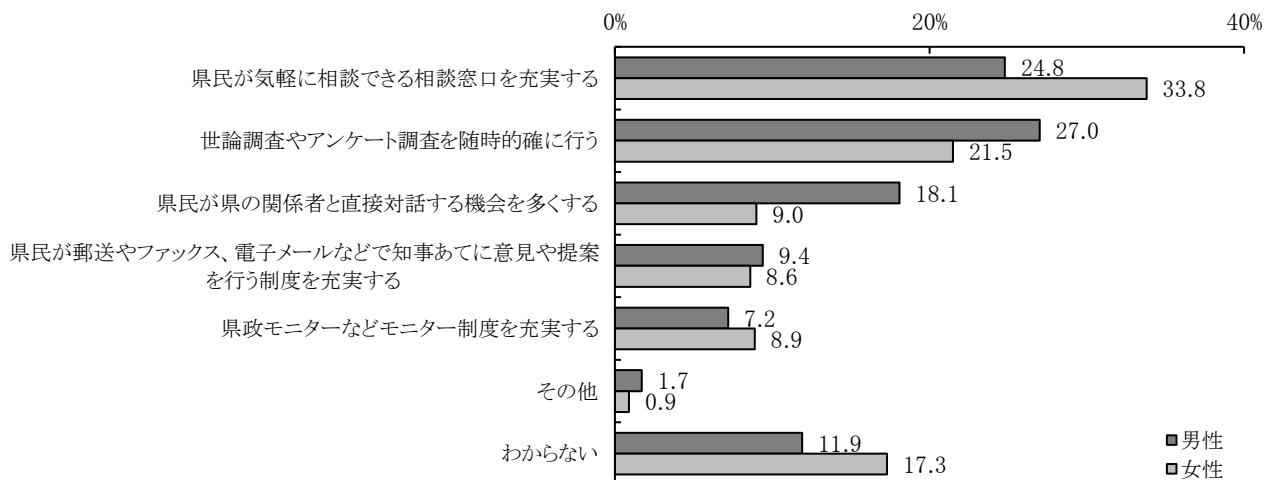


【性別】

性別にみると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合は女性（33.8%）の方が男性（24.8%）より9.0ポイント多くなっている。

また、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」と答えた人の割合は、男性（27.0%）の方が女性（21.5%）より5.5ポイント多くなっている。「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」と答えた人の割合は、男性（18.1%）の方が女性（9.0%）より9.1ポイント多くなっている。

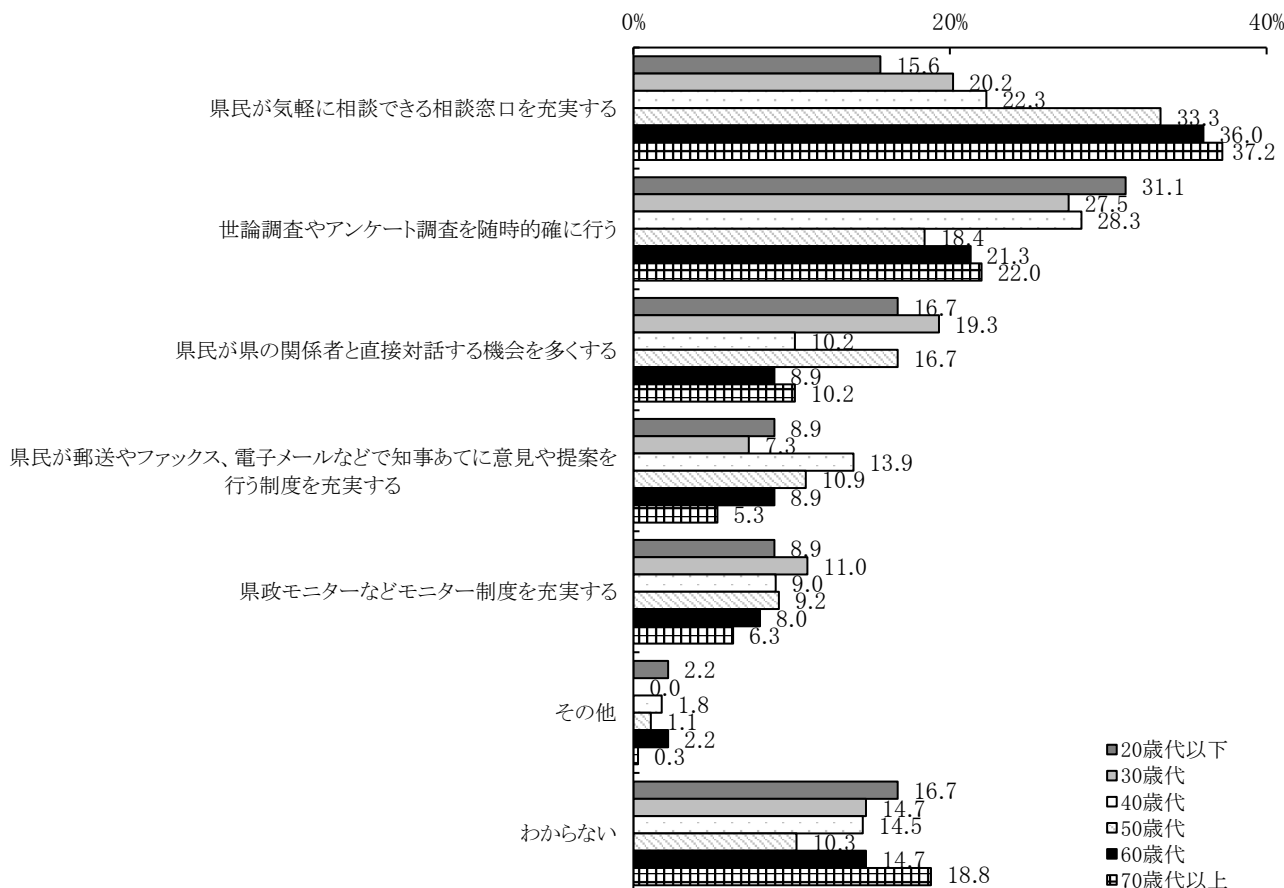
この他、前回調査と比較すると「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」と答えた人の割合は、男性が5.2ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると40歳代以下では「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」が最も多く、50歳代以上で「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が40歳代で8.6ポイント、60歳代で4.9ポイント減少している。「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」が50歳代で7.3ポイント増加している。



問 23 県民の声の伝達方法

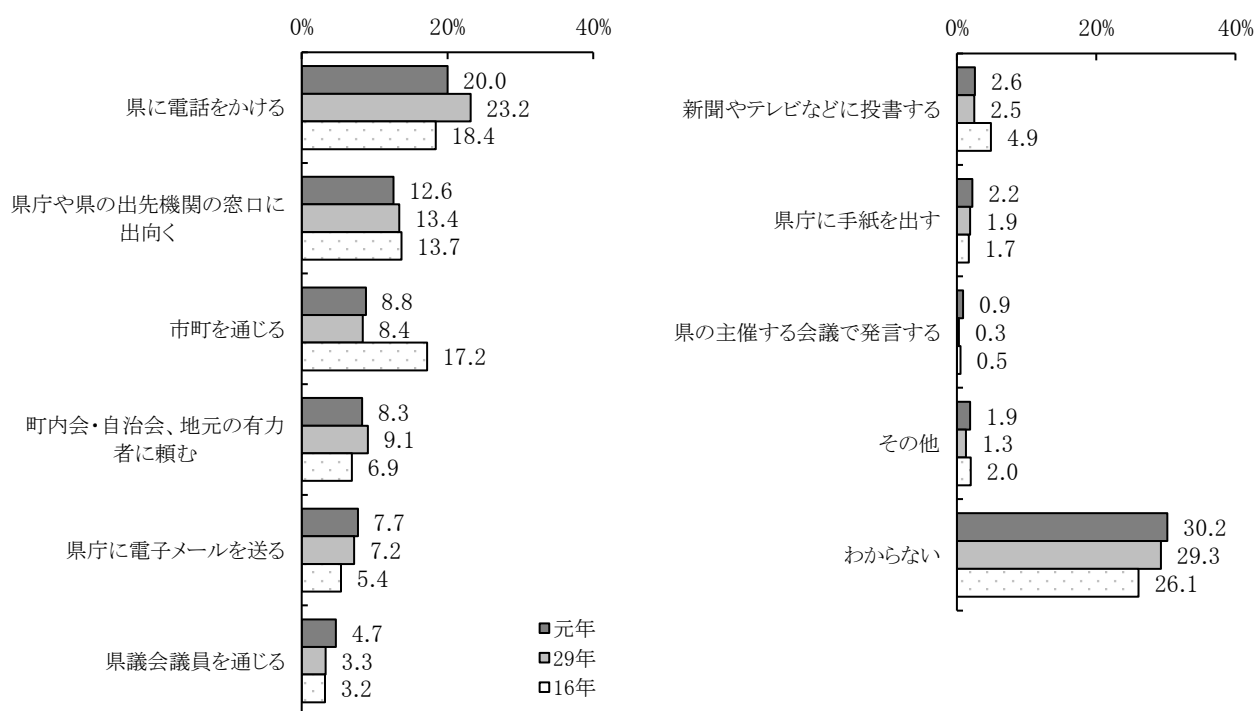
あなたは、県に意見、要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとられますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 県庁や県の出先機関の窓口に出向く	12.6
2 県庁に手紙を出す	2.2
3 県庁に電子メールを送る	7.7
4 県に電話をかける	20.0
5 県の主催する会議で発言する	0.9
6 市町を通じる	8.8
7 町内会・自治会、地元の有力者に頼む	8.3
8 県議会議員を通じる	4.7
9 新聞やテレビなどに投書する	2.6
10 その他	1.9
11 わからない	30.2

県に意見や要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとるかを聞いたところ、「県に電話をかける」と答えた人の割合が20.0%と最も多く、以下「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」(12.6%)、「市町を通じる」(8.8%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると「県に電話をかける」と答えた人の割合は、3.2ポイント減少しているが、「県議会議員を通じる」は、1.4ポイント増加している。

なお、「わからない」と答えた人の割合が30.2%を占めている。

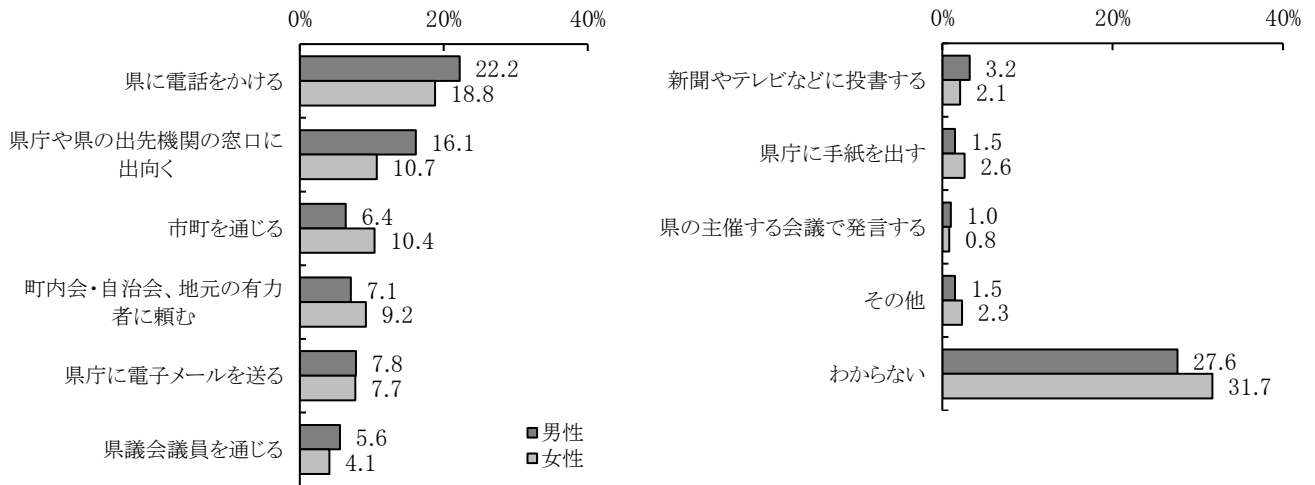


【性別】

性別にみると、男女共に「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、特に男性（22.2%）の方が女性（18.8%）より3.4ポイント多くなっている。

また、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」と答えた人の割合は、男性（16.1%）の方が女性（10.7%）より5.4ポイント多く、「県議会議員を通じる」も男性（5.6%）の方が女性（4.1%）より1.5ポイント多くなっている。

なお、「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」、「市町を通じる」、「県庁に手紙を出す」と答えた人の割合は、男性より女性の方が多くなっている。



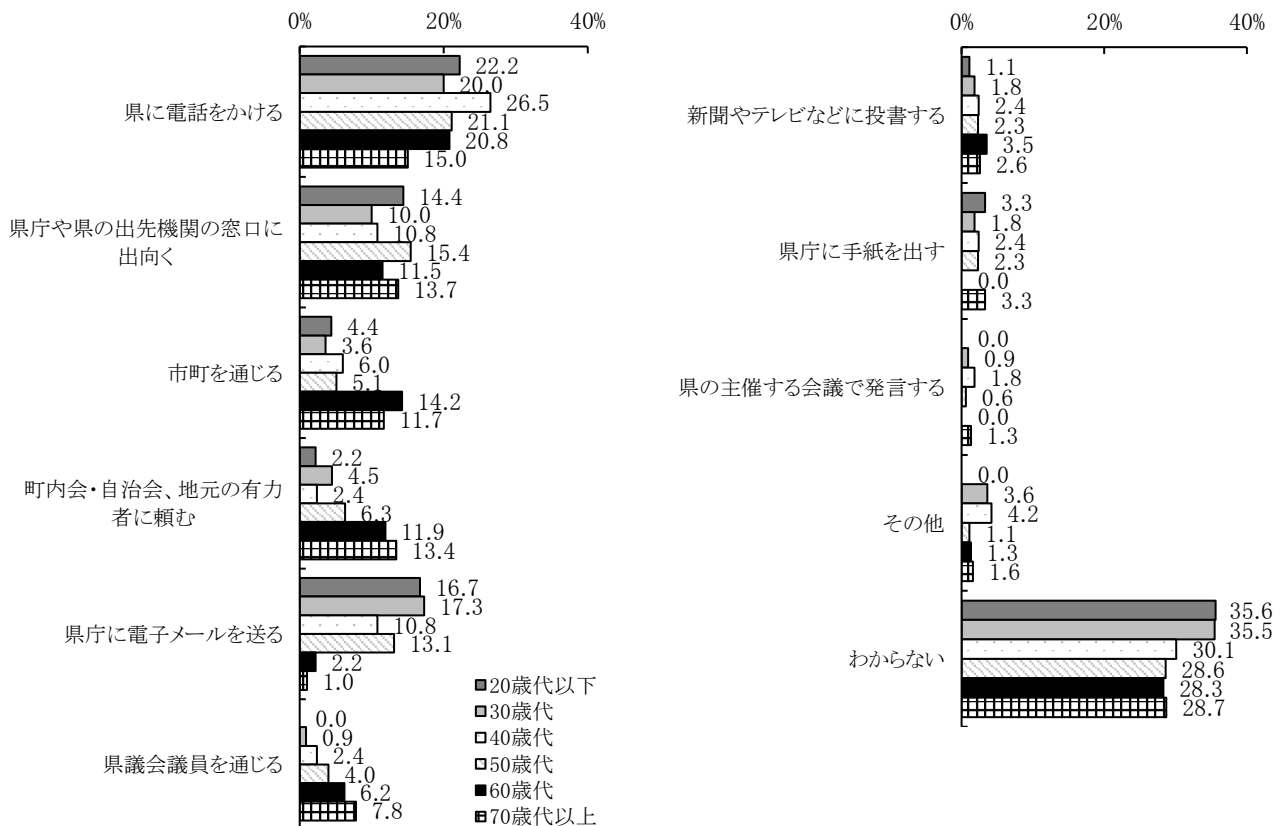
【年齢別】

年齢別にみると、「わからない」を除くと全ての年齢層で「県に電話をかける」と答えた人の割合が多くなっている。

また、「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」と答えた人の割合は、60歳代以上で多くなっており、「県庁に電子メールを送る」は、おおむね年齢層が低くなるほど多くなっている。

この他、前回調査と比較すると、「県庁に電話をかける」と答えた人の割合は、30歳代で9.4ポイント減少している。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、20歳代以下（35.6%）、30歳代（35.5%）で特に多くなっている。

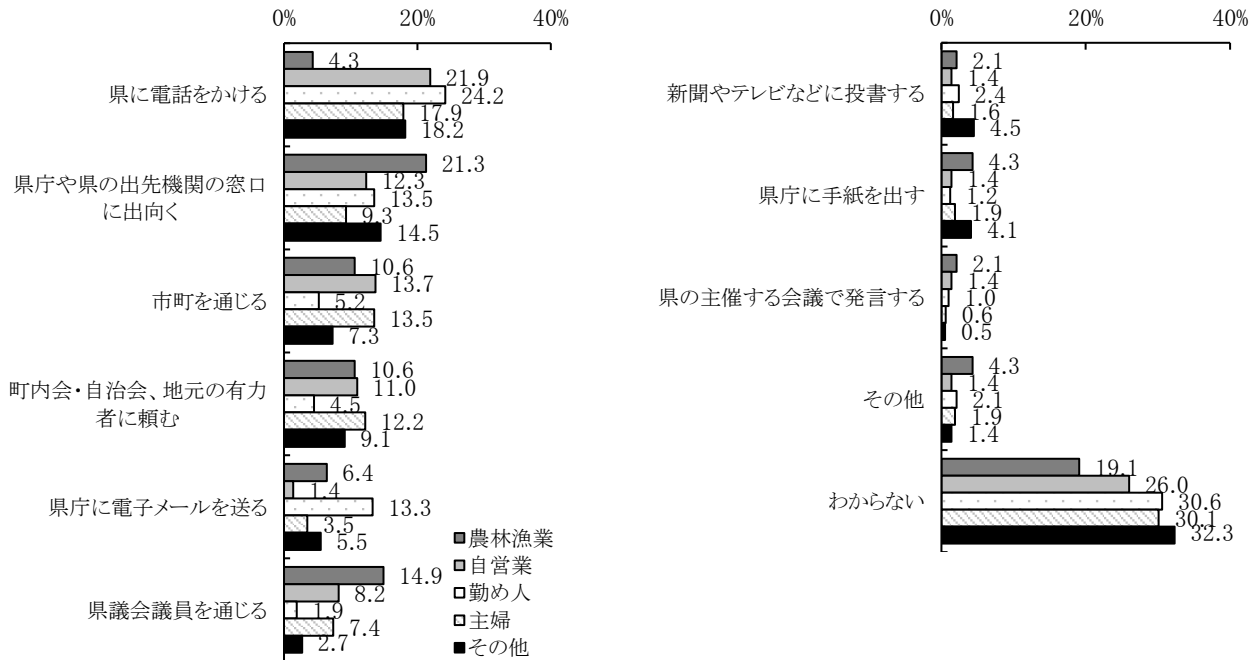


【職業別】

職業別にみると、農林漁業を除く全ての職業で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では「県庁や県の出先機関の窓口に向く」が最も多く、他の職種と比較しても特に多い。

農林漁業は「県に電話をかける」が、前回調査と比較して16.8ポイント減少している。

また、「県に電話をかける」と答えた人の割合は、勤め人（24.2%）及び自営業（21.9%）で他の職種と比較して多く、「県庁に電子メールを送る」は勤め人（13.3%）で多い。「県議会議員を通じる」は農林漁業（14.9%）で多くなっている。

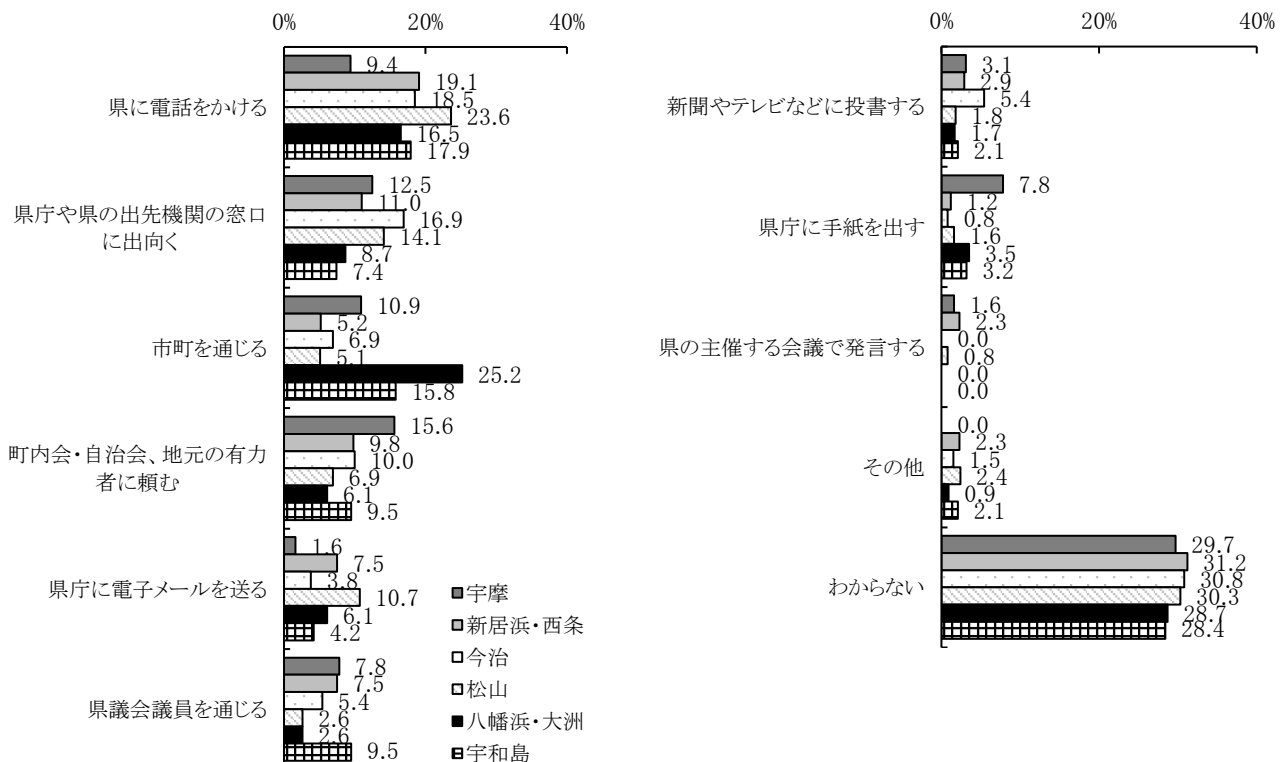


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域を除く全ての圏域で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域では「市町を通じる」、宇摩圏域では「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」が最も多くなっている。

また、「市町を通じる」は、八幡浜・大洲圏域で他の圏域と比べて特に多くなっている。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、全ての圏域で3割前後と多くなっている。



問 24 県政出前講座の周知度

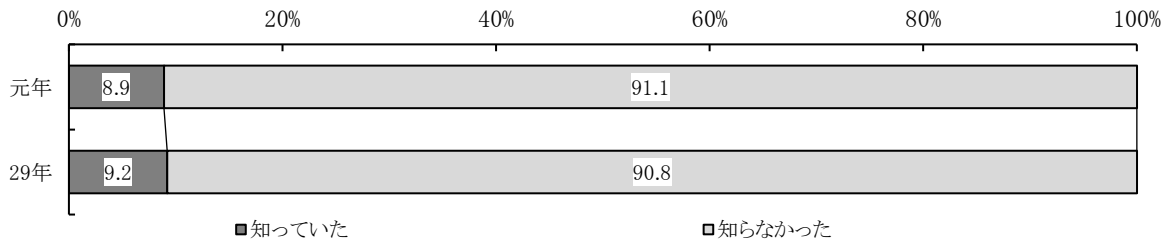
県では、県民の皆さんや団体からのご要望に応じ、地域や職場で行われる集会に職員を派遣し、県の施策や事業等をご説明する「県政出前講座」を実施しています。

あなたは、この「県政出前講座」をご存知でしたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	知っていた	8.9
2	知らなかった	91.1

県政出前講座について知っているか聞いたところ、「知っていた」と答えた人の割合は8.9%で、残りの91.1%は「知らなかった」と答えている。

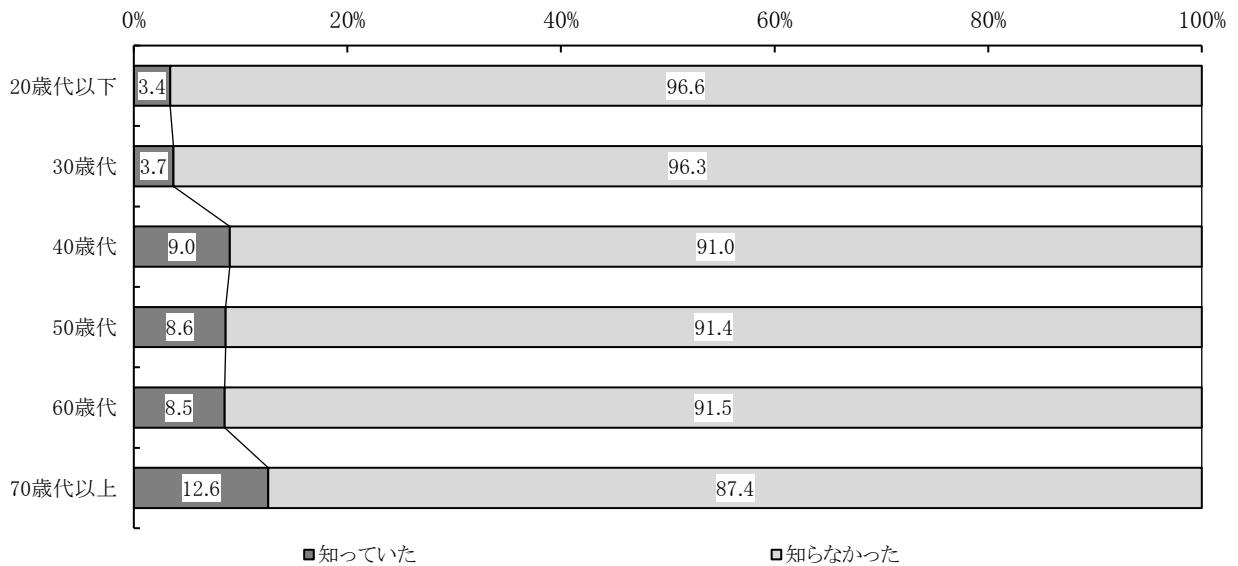
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、0.3ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は、40歳代以上が多くなっている。

また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が、40歳代及び50歳代で増加している。



問 25 県政出前講座を利用したいかどうか

あなたは、「県政出前講座」を利用したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	利用したい	13.5
2	利用したいとは思わない	26.1
3	わからない	60.4

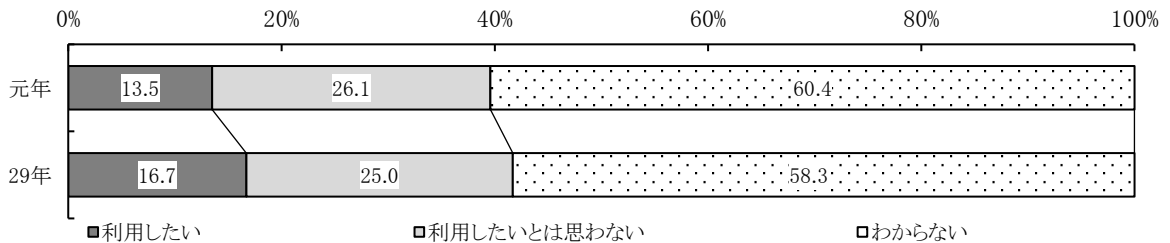
利用したいとは思わない主な理由を、次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

(回答者 = 283人) (%)

1	県政に興味がないから	17.8
2	利用したい講座テーマが設定されていないから	2.8
3	設定されている講座テーマを知らないから	13.9
4	講座は難しそうなイメージがあるから	14.6
5	利用する時間がないから	25.6
6	市町が実施している各種の講座を利用しているから	1.8
7	その他	6.8
8	特になし	16.7

県政出前講座を利用したいかどうか聞いたところ、「利用したい」と答えた人の割合が13.5%、「利用したいとは思わない」が、26.1%であるのに対し、「わからない」が、60.4%となっている。

また、前回調査と比較すると、「利用したい」が3.2ポイント減少している。

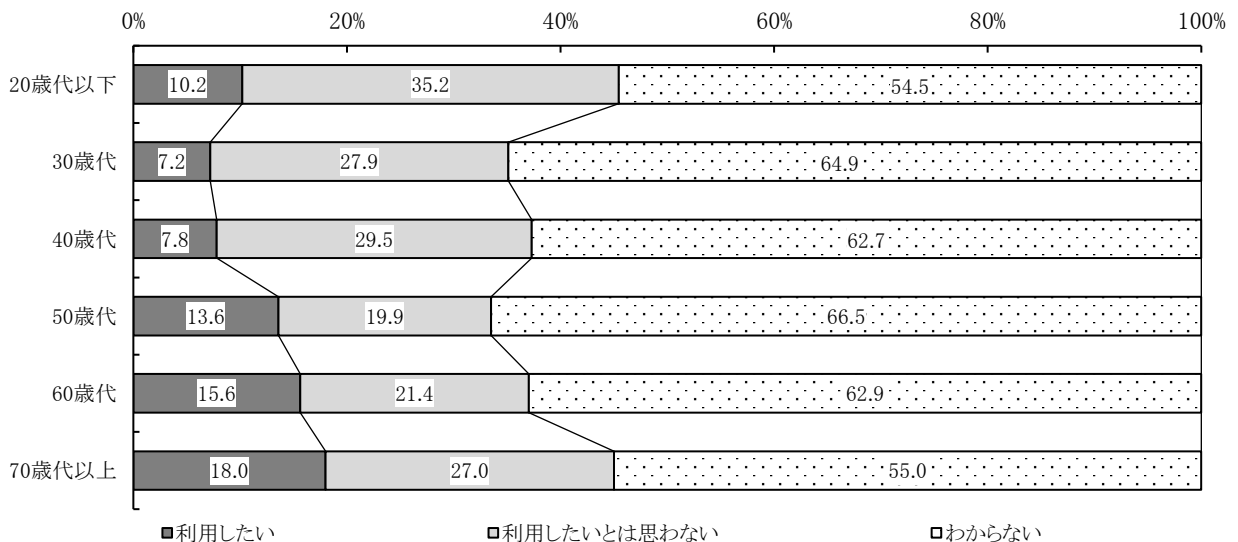


【年齢別】

年齢別にみると、「利用したい」と答えた人の割合は70歳代以上（18.0%）で最も多く、「利用したいとは思わない」は20歳代以下（35.2%）で最も多くなっている。

また、20歳代以下を除く全ての年齢層で「わからない」が、5割を超えている。

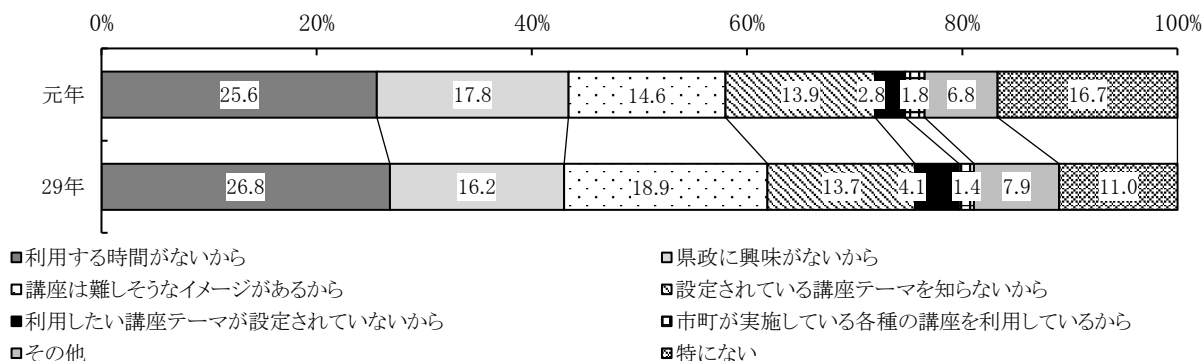
この他、前回調査と比較すると「利用したい」と答えた人の割合が、60歳代で6.1ポイント、70歳代以上で5.2ポイント減少している。



《利用したいとは思わない理由》

利用したいと思わない理由を聞いたところ、「利用する時間がないから」と答えた人の割合が25.6%で最も多く、以下「県政に興味がないから」（17.8）、「講座は難しそうなイメージがあるから」（14.6）、「設定されている講座テーマを知らないから」（13.9）などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「講座は難しそうなイメージがあるから」と答えた人の割合が4.3ポイント減少しているほか、「特にない」が5.7ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下は「県政に興味がないから」、30歳代、40歳代及び60歳代で「利用する時間がないから」と答えた人の割合が最も多く、50歳代と70歳代以上で「設定されている講座テーマを知らないから」が最も多くなっている。

また、「利用する時間がないから」と答えた人の割合は、30歳代（38.7）及び40歳代（36.7）で他の年齢層と比較して多く、「講座は難しそうなイメージがあるから」が20歳代（9.7%）で他の年齢層と比較して少なくなっている。

